

訂正
增補
祝詞
作文
法
全

皇典研究
院大學
出版
部

259
255

014532-000-8

特19-446

祝詞作文法（訂正增補）

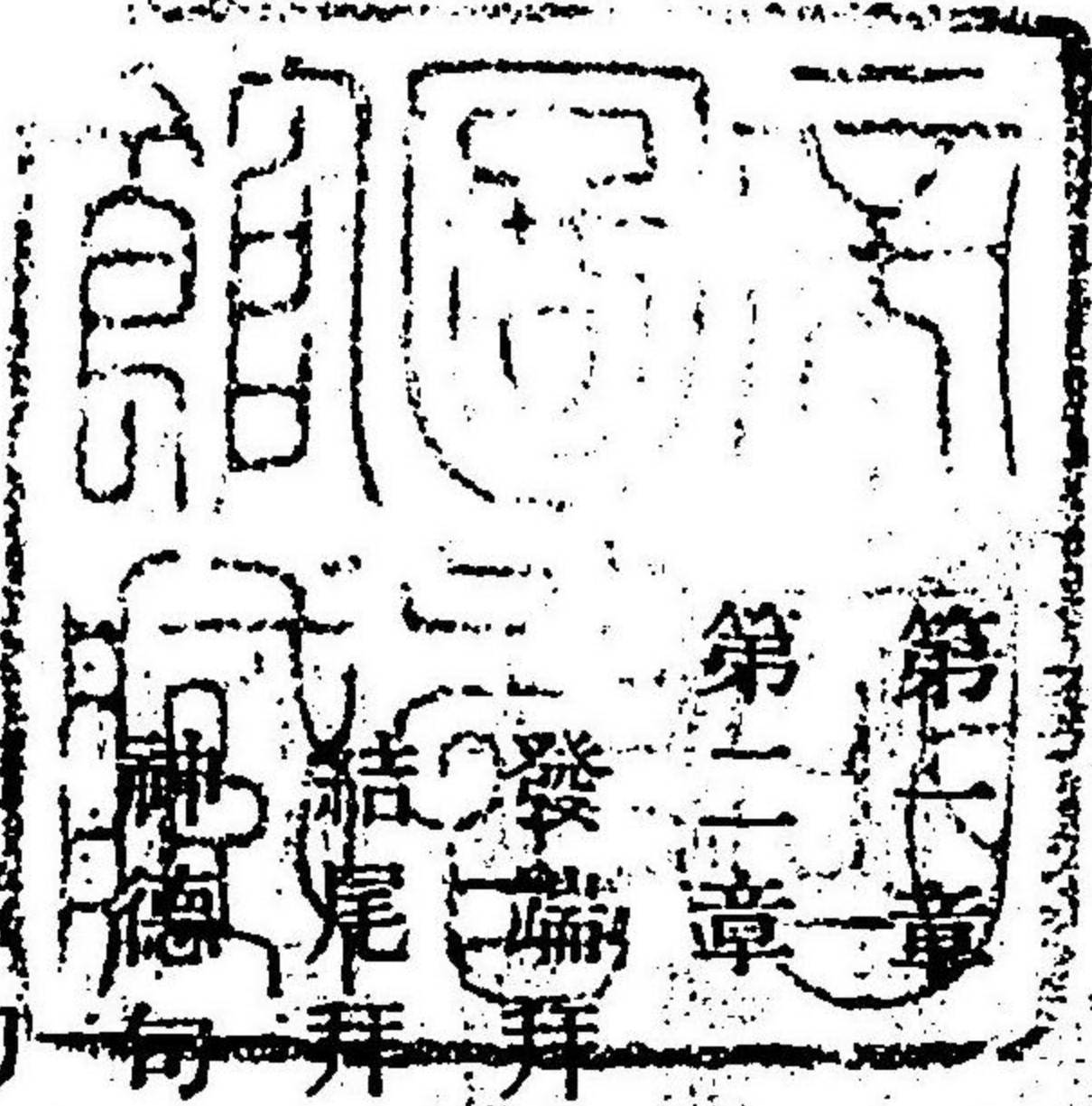
春山 頼母／著

M42

ABB-0916



特19
446



增訂
正
祝詞作文法目錄

作文大意

第二章
發端拜詞句
句例

結尾拜詞句

神德句

由緣句

感謝句

裝束句

作行句

獻供句

明治
42 4 30
丙亥

祈願句

第三章 文例

年始祝詞

同

紀元節

祈年祭

除蝗祭

大祓祝詞

宮地鎮謝祭

地鎮祭

同

新殿祭

遷宮祝詞

遷座祝詞

鎮座祝詞

造竟廊石垣祝詞

造竟御廐祝詞

門神祭

竈神祭

井神祭

出船祭

祈漁祝詞

祈獸獵祝詞

祈雨祭

祈晴祭

吉備津神社例祭

砥鹿神社例祭

山室山神社大祭

祭二靈祝詞

祭祖靈祝詞

六月月次祭

遣唐使時奉幣

春日祭

平野祭

龍田風神祭

鎮火祭

第四章 送假字と音假字

訂正 祝詞作文法
増補

本居 豊 穎 閣
春山 頼 母 著

第一章 作文大意

文作るわざは最難し。とりわきて神の御前に申す祝詞
文はいと難きわざなりとす。そは人の情は更なり
神の御心を感ぜしむべき文なればなりかし。され
ど眞白玉なす。めでたく美しき文を作らむ事こそあれ。
主意の明かに。文脈の滞りなく聞ゆるばかりの文作ら
むかたには。なかく難からずともいふべきが如し。そ
は如何といふに。祝詞文は。記事文。或は論文などとは異

にて其の體裁粗一定せるものなればなり。依て之を作らむとするには。先一定の體格ある事を知るに在り。其の體格を知らむとするには。一篇の文は。如何なる意味をもてる種々の句より。組立てられたりや。はた。それを組立てたる種々の句は。如何なる順序もて。一篇の文を綴り成したりやといふ事を知るべきなり。

そもく。祝詞文を組立てたる句に。八種の別あり。拜詞句。神德句。由縁句。感謝句。裝束句。作行句。獻供句。祈願句なり。又拜詞に。發端と結尾との二種の別あり。此の種々の句を以て。一篇の文を綴り成す上におきて。其の順序の異同あり。即ち左の如し。

い 發端拜詞句

ろ 神德句

は 獻供句

に 祈願句

ほ 結尾拜詞句

い 發端拜詞句

ろ 神德句

は 祈願句

に 獻供句

ほ 結尾拜詞句

右の二格は祝詞文の常格なり。そが中にも前格を以て普通格とす。さて此の二格いづれも神徳句の位置に。更に由縁句を置くことあり。由縁句は神事にもあれ。何事にもあれ。物の古事本縁をいへる詞どもなれば。自然に其の句法は。餘の句どもと大に異なり。そは神徳句などの諸句は。其の續け成し。長きものなるを。由縁句は。本來記事文なるが故に。その續けなしは。餘の諸句に比しては。大に短きものなり。

又感謝句は。神徳を感謝し奉れる詞どもなれば。必神徳句の下に接續し。装束作行の二句は。神徳句と獻供句。或は祈願句との間に挟み置くものなり。之を要するに。拜

詞神徳由縁獻供祈願の五句は。祝詞文を組立つるところの骨なり。肉なり。其餘の感謝装束作行の三句は。皮膚なり。毛髪なりと知るべし。故に長篇の祝詞は

い 發端拜詞句

ろ 神徳句或は由縁句

は 感謝句

に 装束句或は作行句

ほ 獻供句

へ 祈願句

と 結尾拜詞句

といふ順序もて。一篇の文を綴り成すものなり。これ祝

詞文を作る法の大體なりとす。故に祝詞文を作らむと
するもの。此の章に通曉したらむのちは。直に次章に移
りて。句の林にわけいりて。其の生ひ立てる句どもの。或
は短く或は長く。或は直く或は曲れるさまの枝振ある
ことを辨へ知るべし。さては。またその次章に進みて。文
の園にたちいりて。其の句ひ咲ける花を手折りてかぎ
しつゝありなほ。つひにわが思ふまゝに文を作り成し
得べく。また主意もおぼくしからず。文脈も亂れざる
べし。然れど。此の文例は。主と正格の文のみを採輯した
るが故に。祝詞文の妙。此の書に止まらざるなり。學者の
やたどりにたどりて。古事記及古風土記の文。續日本紀

に載れる宣命文。また萬葉集の歌詞などの古言の妙處
に踏分け入るべし。かく勞きつゝありなほ。遂に人の心
はさらなり。神の御慮をも動し奉るばかりの文も作り
えられなむかし。

謂ゆる八種の句は。章句の句にて。句讀の句にあらず。故
に語意の全く絶れたるも絶れざるもあり。句讀の句は。
語意の全く絶れたるものにて。語學にいへる截斷言な
り。本書の文例に。此の如き短線を注せるは。即ち句讀
の句を示せるなり。

さて又祝詞作りたらむのち。其の書様をも正しくすべ
し。文はいかによく作りなしたりとも。その書様の法も

なく猥りなるは。心劣りせらるゝのみならず。見む人も
読み難く。はた読み誤りぬべし。之を正しくせむとする
は。送假字の規則を知るにあり。送假字は。必音假字を用
みて。訓假字を用ゐぬ例なれば。古く慣用したれども。ト
の假字に止を用ゐ。テハといふに而者と書くなどは。宜
しからずと心得べし。其の假字の事は。尙第四章にいは
むとす。

第二章 句例

抑祝詞文を作らむとするには。先祝詞の句法を知らざ
るべからず。そは。一篇の文は。數多の句を以て組立てた
るものなればなり。故に學者必まづ此の篇を熟讀玩味

して。句を作り章をなす法を悟入すべし。

發端拜詞句

此の條は。祝詞文の首に。まづ言ひ出で。神を
拜む詞を擧ぐ

度會乃宇治五十鈴川上爾大宮柱太敷立天高天原爾千
木高知天稱辭竟奉留天照坐皇太神乃大前爾申久(祝詞
式)

こは首に鎮坐の地名を置き。次に神名拜詞を書く例
文とすべし。但し。拜詞に稱辭竟奉留と書くは。天皇の
御言に限ることにはやと思はるゝよしあれば。普通に
は。之に換ふるに鎮坐須などいふべし。又。神名の上に

は掛卷久毛畏伎などの詞を冠らすべし凡て式の祝詞は天皇の申給ふ御言なれば普通には其の儘用ゐ難き事多かり心得ではあるべからず皇御孫命御命以伊勢能度會五十鈴河上爾稱辭竟奉流天照坐皇大神能大前爾申給久(祝詞式)

此の文は本文を略けるものなり普通には皇御孫命御命以の七字を省き又上に同じく河上爾鎮坐須と書くべし

出雲國乃青垣山内爾下津石根爾宮柱太敷立也高天原爾千木高知坐須伊射那伎乃日眞名子加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命國作坐志大穴持命二柱神乎始天

百八十六社坐皇神等(祝詞式)

於宇迦能山之山本於底津石根宮柱布刀斯理於高天原冰椽多迦斯理而(古事記)

石上振之神楯伐木截末於市邊宮治天下天萬國萬押磐尊(日本書記)

御縣爾坐皇神等前爾白久高市葛木十市志貴山邊曾布登御名者白氏(祝詞式)

水分坐皇神等能前爾白久吉野宇陀都祁葛木登御名者白氏辭竟奉者(祝詞式)

こは上と同じく地名を首に置きたれども次に祭るべき神等を取すべて皇神等云々と先語を結び次に

神名を並べ擧ぐるものにて。是亦一の體なり。之を普通
通の文に移さば。某神社爾坐須皇神等乃御前爾白左
久。某命某命登御名波白志氏などいふべし。

大御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久神魂高御魂生魂足
魂玉留魂大宮乃賣大御膳都神辭代主登御名者白而辭
竟奉者(祝詞式)

御門能御坐能稱辭竟奉皇神等能前爾白久櫛磐間門命
豊磐間門命登御名者白氏辭竟奉者(祝詞式)

こは神を齋き祀る者を首に置きたるが。上文と稍異
なるのみにて。其餘は同じ
三柱綿津見神者阿曇連等之祖神以伊都久神也(古事

記

こは祝詞文に移さば。某我以崇伎奉留掛卷母畏伎
皇神乃御前爾白左久などいふべし。

天皇我大命爾坐世恐岐鹿島坐健御賀豆智命香取坐伊
波比主命枚岡坐天之子八根命比賣神四柱能皇神等能
廣前仁白久(祝詞式)

こは他處々に鎮坐せる神等を。一處にて祭祀を行ふ
時の例文とすべし。但し普通のは首の天皇我云々の
八字は冠らすべからず

天皇能御命能坐世。今木與利仕奉來流皇大御神能廣前
爾白給久(祝詞式)

天皇我御命爾坐世久度古開二所能宮爾之氏仕奉來波
皇御神能廣前爾白給久(祝詞式)

こは仕奉り來し所由を言ふ時の例文とすべし。但し、
神名をば省くべからず

高天之原爾事始氏皇御孫之命止稱辭竟奉大八衢爾湯
津盤村之如久塞坐皇神等之前爾申久八衢比古八衢比
賣久那斗止御名者申氏辭竟奉久波(祝詞式)

こは首に皇神等の坐す緣由を云ひて次に御名を申
せるものにて是亦一の體なり

結尾拜詞句

此の條は祝詞文の結に置きて神を拜む詞を

舉ぐ

萬世爾御坐令在米給登稱辭竟奉久登申(祝詞式)

右の如く稱辭竟奉久を以て結べるは祝詞式大方の
例なれどもこは朝廷の御祭にて天皇より申給ふ御
言なる故にかく大らかに云へるなり普通には祈禱
奉良久又乞願奉良久など書くべし。但し元始祭な
どの祝祭には祝辭もて結むるも可なるべし。

今年十二月某日齋比鎮奉止申(祝詞式)

こは鎮御魂齋戸祭の詞なればかくは申せるなり。故
に神を鎮祭する時の例文とすべし。

御相殿爾齋鎮奉留狀乎神隨母所聞食互相宇豆那比賜

閉登恐美恐美母白須(縣居家集)

中臣大玉串爾隱侍天今年九月十七日朝日豊榮登爾

天津祝詞乃太祝詞辭乎稱申事乎神主部物忌等諸聞食

止宣祝詞式

こは宣命の詞なればかくは云へるなり普通の祝詞
ならむには云々稱申須事乃由乎平氣久安氣久聞食

世止恐美恐美毛白須と書くべきなり

大中臣茂梓中取持氏恐美恐美毛申給久止申(祝詞式)

こは齋内親王奉入時の詞なればかくは申せるな

り普通の祝詞ならむには姓名鹿自物膝折伏世恐美

恐美毛白須又鶉成須伊波比回利云々又鶉自物頸根

衝拔氏云々と白すべきなり

今日乃御祭爾相集閉留神主等諸共爾鶉成並居宇自

物頸根衝拔互平手打上氣拜美恐美恐美毛申給波久

登白須(古學諄辭集)

畏自物進退比匍匐比鶉自物項根突拔互天之八平手

打上互畏美畏美毛言告里祝伎奉留登白須(古學諄辭

集)

大御祭仕奉流事乃由乎皇神等乃御心毛明爾所聞食

登恐美恐美毛申賜久登白須(祝詞文例)

右等の中に云云登白須と結ぶ所を申賜波久登白須
といふは天皇の命に随ひて宣る時にいふが本義な

るべく思はるれば普通のことには避くる方穩なるべし

神徳句

此の條は皇神の御功德を稱へ奉れる詞を舉

ぐ

皇御孫命御世乎。手長御世登。堅磐爾常磐爾齋比奉茂御

世爾幸附奉故(祝詞式)

皇御孫命乃御世乎。堅磐常磐爾奉護利。五十櫃御世乃足

良志御世爾。田永能御世止奉福爾依氏(祝詞式)

以上の文は大御世を遠長に榮え坐すべく幸へ給ふ

神徳を稱へ奉れるなり

皇神能敷坐島能八十島者谷蟆久狹度極鹽沫能留限狹
國者廣久峻國者平久島能八十島墮事無皇神等能依左
志奉故(祝詞式)

こは天下四方の國を漏るゝ事なく天皇へ寄せ奉り
給ふ神徳を稱へ奉れる文なり

山野海河在者多爾久久乃左和多流岐波美加弊良乃
加用布岐波美波多乃廣物波多乃狹物毛乃荒物毛乃
和物供御雜物等(高橋氏文)

四方内外御門爾如湯津磐村久塞坐氏四方四角與利疎
備荒備來武天能麻我都比登云神乃言武惡事爾相麻自
許利相口會賜事無久自上往波上護利自下往波下護利

待防掃却言排坐。朝波開門。夕波閉門。參入罷出人。名乎問所知志。咎過在乎波。神直備大直備爾。見直聞直坐。氏平良氣久安。良氣久令奉仕賜故(祝詞式)

こは。大宮の御門に立塞り坐して。御門の開閉を守り。荒ひ疎ひ來む妖魅どもを何方よりも入れじと聞な。く守り賜ふ。櫛磐間門豊磐間門命の神徳を稱へ奉れる文なり

遠津神代爾二柱相並婆志。御心乎合世賜比御力乎合。世賜互諸共爾大八洲國修理堅米賜互國作坐大神登稱。辭竟奉大神等諸乃病乎治牟流藥乃方乎母始賜比定賜。天下爾所有流顯見青人草乃苦瀬爾落互阿都迦比櫛

牟乎助賜比救賜閉婆(鈴屋集)

こは。神代の昔に國土を經營成し賜ひ。また醫藥を起し賜ひて。青人草を救け賜ひし。大穴牟遲命少名毘古那命の神徳を稱へ奉れる文なり

倭文手經數爾母不在某我言麻久毛綾爾恐計度皇大神乃御名波比古伊佐勢理毘古命亦御名乎大吉備津日子命止申故者針間能氷河乃前爾忌益居互天地乃神爾乞禱賜比針間乎道口止爲互此吉備國乃荒夫流神不奉仕人乎言向和賜波武止天皇乃御子奈賀良所念看互御腰爾大刀取佩志御手爾弓取持之軍士乎率伊佐奈比氏背尙奉流者乎擊賜比和賜布佐麻波科戸之風爾天雲乃晴

留事能如久朝日之影爾露霜乃消留事能如久爾奈母有
祁流其御功爾與曾利天稱奉里互大吉備津日子命止申

(松屋文後集)

こは吉備津日子命の神徳を稱へ奉れる文なり
高天原爾神留坐須皇親神魯岐神魯美乃命以氏皇御孫
命波豐葦原乃水穗國乎安國止平久所知食止天下依奉
志時八百萬乃神等乎天安河乃河原爾神集集賜比神議
議給氏彼國波知速振荒振神多在止所聞食乎誰乃神乎
遣氏加言向萬志止問波志給布時爾八意思兼神深久思
比遠久議給比都良久天安河乃河上乃天岩屋爾座須伊
都之尾羽張神乃御子建御雷之男神石拆神根拆神乃御

子經津主神是善計牟止白賜伎是以二柱大神等神漏岐
神漏美乃大命乎以互出雲國伊那佐乃小濱爾天降著給
氏國造良志志大國主神其御子言代主神乎神問志問志
給氏現國乃事避志米久那斗神乎鄉導止爲天大八洲國
中悉廻給給氏螢那須耀神狹蠅那須邪伎神等乎婆神掃
掃給氏語問志石根木根立草乃片葉乎毛言止氏安國止
平久鎮給伎又畝火乃櫃原宮爾初國治看志志天皇命乃
大和國爾打入賜志時爾邪神乃氣吹爾痒臥座留乎國平
乃橫刀布都魂乎天降志寄志給荒振神乎皆切仆志賜伎
又師木水垣宮爾大八洲國所知看志志天皇命乃大御代
爾毛大坂山乃頂爾白妙乃大御服乎著坐白鉢乎御杖爾

取坐。識賜命波。我御前乎治奉波。汝聞勝知食國平久。大國
小國事依賜牟止識賜伎。故此大稜威乃高久貴伎御靈布
由乎辱美氏(神祭式)

こは鹿島神香取神の御稜威を稱へ奉れる文なり

由縁句

此の條は物の古事本縁をいへる詞を擧ぐ
志貴島爾大八島國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止
赤丹乃穗爾聞食須五穀物乎始氏天下乃公民乃作物乎
草乃片葉爾至萬氏不成一年二年爾不在歲眞尼久傷故
爾百能物知人等乃卜事爾出牟神乃御心者此神止白止
負賜支此乎物知人等乃卜事乎以乎卜止母出留神乃御

心母無止白止聞看氏皇御孫命詔久神等乎波天社國社
止忘事無久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神會
天下乃公民乃作物乎不成傷神等波我御心會止悟奉
禮止宇氣比賜支是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃
公民乃作物乎惡風荒水爾相都都不成傷波我御名者
天乃御柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏吾前爾奉
牟幣帛者御服者明妙照妙和妙荒妙五色乃物楯戈御馬
爾御鞍具氏品品乃幣帛備氏吾宮者朝日乃日尙處夕日
乃日隱處乃龍田乃立野乃小野爾吾宮波定奉氏吾前乎
稱辭竟奉者天下乃公民乃作物者五穀乎始氏草乃
片葉爾至萬氏成幸閉奉牟止悟奉支(祝詞式)

こは。崇神天皇の風神の御悟のまゝに。龍田小野に宮
柱定奉りて。神祭を行ひ奉り賜ひし古事をいへる文
なり

神伊佐奈伎伊佐奈美乃命妹背二柱嫁繼給氏國乃八十
國島能八十島乎生給比。八百萬神等乎生給比氏。麻奈弟
子爾。火結神生給氏。美保止被燒乎石隱坐氏。夜七夜晝七
日吾乎奈見給比會。吾奈妖乃命止申給比支。此七日爾波
不足氏。隱坐事奇止氏見所行須時。火乎生給氏。御保止乎
所燒坐支。如是時爾。吾名妹乃命能。吾乎見給布奈止申乎。
吾乎見阿波多志給比津止申給氏。吾名妹能命波。上津國
乎所知食倍志。吾波下津國乎所知。今止白氏。石隱給氏。與

美津枚坂爾至坐氏所思食久。吾名妹命能所知食上津國
爾。心惡子乎生置氏來奴止宣氏返坐氏。更生子水神瓊川
菜埴山姫。四種物乎生給氏。此能心惡子乃心荒比會波。水
神瓊埴山姫川菜乎持氏。鎮奉禮止事教悟給支。(祝詞式)

こは。火神の生坐し。所由より。其の御荒を鎮め奉ら
む。四種の物の成出でし古事をいへる文なり

高天原爾神留坐。皇親神漏岐神漏美乃命以氏。八百萬神
等乎。神集集賜比。神議議賜氏。我皇御孫之命波。豐葦原乃
水穗之國乎。安國止平久知所食止事依志奉伎。如此依志
奉志國中爾。荒振神等乎波。神問志爾問志賜神掃掃賜比
氏。語問志磐根樹立草之垣葉乎毛語止氏。天之磐座放天

之八重雲乎。伊頭乃千別爾。千別氏。天降依志奉支(祝詞式)
こは皇孫瓊々杵尊の國君として天降り坐し。其の

本縁を言へる文なり

高天之原爾神留坐氏。事始給志神漏伎神漏美能命以
氏。天之高市爾八百萬神等乎。神集集給比神議議給氏。
我皇御孫之尊波。豐葦原能水穗之國乎。安國止平氣久
所知食止天之磐座放氏。天之八重雲乎。伊頭之千別支
爾千別氏。天降所寄奉志時爾。誰神乎先遣波志。水穗國
能荒振神等乎。神攘攘平氣武止神議議給時爾。諸神
等皆量申久。天穗日之命乎遣而平氣武止申支。是以天
降遣時爾。此神波返言不申氏。次遣志健三熊之命毛隨

父事氏返言不申。又遣志天若彥毛返言不申氏。高津鳥
殃爾依氏立處爾身亡支。是以天津神能御言以氏更量
給氏。經津主命健雷命。二柱神等乎。天降給比氏。荒振
神等乎。神攘攘給比神和給氏。語問志磐根樹立草之
片葉毛語止氏。皇御孫之尊乎。天降所寄奉支(祝詞式)
高天能神王高御魂神魂命能皇御孫命爾。天下大八島
國乎事避奉之時。出雲臣等我。遠祖天穗比命乎。國體見
爾遣時爾。天能八重雲乎。押別氏。天翔國翔氏。天下乎見
廻氏返事申給久。豐葦原乃水穗國波。晝波如五月蠅水
沸支。夜波如火。瓮光神在利。石根木立青水沫毛事問天
荒國在利。然毛鎮平天。皇御孫命爾。安國止平久所知坐

之米牟止申天。已命兒天夷鳥命爾布都怒志命乎副天。
天降遣天荒布留神等乎撥平氣國作之大神乎毛媚鎮
氏大八島國現事顯事令事避支(祝詞式)

高天原爾神留坐須皇親神魯企神魯美之命以氏皇御
孫之命乎天津高御座爾坐氏天津璽乃鏡劔乎捧持賜
天言壽宣志久皇我宇都御子皇御孫之命此乃天津
高御座爾坐氏天津日嗣乎萬千秋乃長秋爾大八洲豐
葦原瑞穗之國乎安國止平氣久所知食止言寄奉賜比
氏以天津御量氏事問之磐根木根立知草能可岐葉乎
毛言止氏天降利賜比(祝詞式)
高天之原爾神留坐須皇親神漏伎神漏美能命乎以氏

皇御孫之命波豐葦原能水穗國乎安國止定奉氏(祝詞式)

右國體の本縁を舉げて今を明にせむと欲するものは以上の文に據るべし其の精粗詳畧は時の宜に隨ふべし

感謝句

此の條は神徳を感謝し奉れる詞を舉ぐ
教悟給比那我良船居作給部禮波悦已備嘉志美禮代乃
幣帛乎官位姓名爾今捧持氏進奉久(祝詞式)
掛畏岐大神乎奉憑天大幣帛奉出給牟止祈申岐而爾
祈驗志毛驗久甘雨令零米賜倍利因歡奈我良散位從五

位下 大中臣朝臣國雄乎 差使 天。大幣帛乎 令捧持天

奉出賜布(三代實錄)

此某等我醫藥乃業母。大神等乃米具美賜比。知波比將賜

御靈爾依豆志過郡事無久。驗波將有登。廣伎厚伎恩賴乎。

恐美恐美母。歡奉理宇禮志美奉流(鈴屋集)

故此大稜威乃。高久貴伎御靈布由乎。辱美氏(神祭式)

璞能年立歸留朝與里。年能終能夕麻氏。日爾異爾賜波流。

天津火能恩賴乎辱美氏(私祭要集)

裝束句

此の條は、神殿神門等の裝飾をいへる詞を舉

ぐ

篤胤我新宅乃奥乃小床乎。伊豆乃磐境登。掃比清米豆。奥

山乃賢木乃枝乎。打折持來互。伊豆乃真坂樹登。二所爾刺

分(古學諄辭集)

故神籬結固米。御船代爾載奉氏。天乃御蔭日乃御蔭覆物

登絹笠刺羽。幸行能道乃守止楯矛弓矢竝氏。鳥羽玉能夜

吉止。人能熟寐爲留亥時爾。人垣立氏。神主官位姓名。皇神

乃御尾前爾仕奉里。新宮爾遷奉氏(神祭式)

千歲將經山松乎。佐根古士酒根古士。邇之氏。五百枝刺小

竹取添氏。御門爾挿立氏。木綿取垂氏。端籠乃索引延氏(神

事略)

天香山之五百津真賢木矣。根許士爾許士而於上枝取

著八尺勾璫之五百津之御須麻流之玉於中枝取繫八尺鏡於下枝取垂白丹寸手青丹寸手而(古事記)
奥山乃賢木之枝爾白香付木綿取付而齋戶乎忌穿居竹玉乎繁爾貫垂十六自物膝折伏(萬葉集)

作行句

此の條は動作をいへる詞を擧ぐ

今奥山乃大峽小峽爾立留木乎齋部能齋斧乎以伐採氏
本末乎波山神爾祭氏中間乎持出來氏齋鉏乎以氏齋柱
立氏皇御孫之命乃天之御醫日之御醫止造奉仕(祝詞式)
此の文齋鉏乎以氏の下に穴乎掘利氏などの語を省きて含ませたり

遠山近山爾生立留大木小木乎本末打切氏持參來氏
皇御孫命能瑞能御舍仕奉氏(祝詞式)

こは本文を畧きたるなり是亦打切氏の下に中間乎などの語を含ませたり

五十鈴原乃荒草木根対掃比大石小石造平互遠山近山乃大峽小峽爾立材乎齋部之齋斧乎以天伐採天本末乎波山祇爾奉祭互中間乎持出來互齋鉏乎以天齋柱立高天原仁千木高知利下都磐根仁大宮柱廣敷立天(倭姫命世記)
於土乎波下爾掘返下土乎波於掘返大宮柱太知立奉給比高天乃原爾知木高知奉朝日奈須耀宮夕日奈

須光留宮爾。世長杵爾。常世乃宮爾。靜坐(丹生祝氏文)

如此出波。天津宮事以氏。大中臣天津金木乎。本打切末打

斷氏。千座置座爾。置足波志氏。天津菅曾乎。本刈斷末刈切

氏。八針爾。取辟氏。天津祝詞乃大祝詞事乎。宣禮(祝詞式)

此の文また打斷氏の下に中間乎持氏置座乎造利互

などの語を省き取辟の下に祓比氏などの語を省き

て含ませたり。これら古文の一格なり

某甲我弱肩爾太禰取挂天伊都幣能緒結天乃美賀祕冠

利天伊豆能眞屋爾。蟲草乎伊豆能席登刈敷支天伊都爾

黒益之天能。應和爾齋許母利氏志都宮爾志靜米仕奉氏

朝日能豐榮登爾伊波比乃返事能神賀吉詞奏賜波久(祝

詞式

獻供句

此の條は神に獻る供物の詞を擧ぐ

奉宇豆乃幣帛者比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙五

色能物楯戈御馬爾御鞍具氏品品能幣帛獻比賣神爾

御服備金能麻笥金能櫛金能持明妙照妙和妙荒妙五色

能物御馬爾御鞍具氏雜幣帛奉氏御酒者毬能閉高知

臙腹滿雙氏和稻荒稻爾山爾住物者毛乃和物毛乃荒物

大野原生物者甘菜辛菜青海原爾住物者鱒能廣物鱒能

狹物與都藻菜邊都藻菜爾至萬氏爾如横山打積置氏奉

此宇豆乃幣帛乎安幣帛能足幣帛止皇神能御心爾平久

聞食氏(祝詞式)

獻供の物品は其の多少によりて異同あれどもまづ此の文を以て例文とすべしこゝに彦神に武器姫神に機具と取分けて獻り賜へるは最嚴重なる御祭なりし故なるべしさて其の他は先御服次に御酒次に

毛物次に甘菜辛菜次に鱈物藻菜と次第せり

貢流神寶者御鏡御横刀御弓御梓御馬爾備奉理御服波明多閉照多閉和多閉荒多閉爾仕奉氏四方國能獻禮留御調能荷前取竝氏青海原乃物者波多能廣物波多能狹物與藻菜邊藻菜山野物者甘菜辛菜爾至麻氏御酒者甕上高知甕腹滿竝氏雜物乎如横山積置氏神主爾某官位

姓名乎定氏獻流宇豆乃大幣帛乎安幣帛乃足幣帛登平

久安久聞食者登(祝詞式)

こは御寶御服荷前鱈物甘菜辛菜御酒と次第せり

進流神財波御弓御太刀御鏡鈴衣笠御馬乎引竝氏御衣波明多閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利氏四方國能進禮流御調能荷前乎取竝氏御酒波門戶高知甕腹滿竝氏山野能物波甘菜辛菜青海原乃物波波多能廣物波多能狹物與都毛波邊津毛波爾至麻氏雜物乎如横山置高成氏獻流宇豆乃大幣帛乎平久所聞氏(祝詞式)

こは御寶御服荷前御酒甘菜辛菜鱈物と次第せり初穂乎波千穎八百穎爾奉置氏甕閉高知甕腹滿雙氏

汁爾母類爾母稱辭竟奉年。大野原爾生物者甘菜辛菜青
海原住物者。鱒能廣物鱒能狹物。奥津藻菜邊津藻菜爾至
此爾御服者明妙照妙和妙荒妙爾稱辭竟奉年(祝詞式)

こは初穂御酒甘菜辛菜鱒物藻菜御服と次第せり

右の三文のみならず。祝詞式を通考するに。皆首に初

穂乎波と言へば。先其の初穂の事を言ひて。其の他を

後に言ひ。首に神寶と言へば。神寶云々を先とし。其の

他を後にす。是其の御祭に就きて。主として獻る物を

先とすと見えたり

奉留物波。今年乃初穂乎。神部等御戸代乃長田佐奈田
爾忌麻波。取取豆。齋白爾春伎。齋箕爾。箴設豆。御食爾

母炊伎。御酒爾母釀志。選閉高知。懸腹滿並。山物波。毛乃
荒物和物。海物波。鱒乃廣伎物。狹伎物。野物川物。種種乃
物乎。八取乃机母。繁爾滿備(縣居家集)

御年初將賜登爲而皇御孫命能守豆能幣帛乎。朝日能豊
逆登爾稱辭竟辭久(祝詞式)

幣帛は。獻供の總稱なるをもて。御服。御食。御酒をも兼
ねて言へるなり。さて幣帛乎の下に。奉置支玉の四

字を含めたり。これ祝詞式皆然あれば。古文の二格と
見えたり。然れども。普通には。書く方をよしとす

進幣帛者。明妙照妙和妙荒妙爾備奉氏。見明物止鏡
翫物止玉。射敢物止弓矢。打斷物止太刀。馳出物止御馬

御酒者。鵺戸高知。鵺腹滿雙氏。米爾毛。額爾毛。山爾住物者。毛乃和物。毛能荒物。大野原爾。生物者。甘菜。辛菜。青海原爾。住物者。鱈廣物。鱈狹物。奧津海菜。邊津海菜。爾至萬氏爾。橫山之如久。几代爾。置所足氏。奉留宇豆乃幣帛乎。皇神等乃御心毛。明爾。安幣帛乃足幣帛止。平久聞食氏。祝詞式。

此の文見。明物。翫物。射放物。打斷物。馳出物。など。鏡玉弓矢。太刀御馬の功用の語を冠らせて。五對に言ひ

なして稱へたるは。他に比類なき文なり。

絹波。乍編綿波。乍結進物波。高坏我彌高。高爾飯乃方毛。利加爾清酒乃早爾。堅鹽乃堅橋乃忽爾。餅乃持豆榮爾。鯛乃平爾。鱈乃彌益益爾。鯛乃好美好爾。鮑乃片岡爾。蠣

乃搔寄豆。薺乃庭佐良須。嚴久聞食志受納給豆。拾芥抄。

此の文彌高々。方毛利加早堅。忽持豆榮。平彌益々。

好美好。片岡搔寄庭左良須。と飯清酒堅鹽。橋餅。鯛

鱈。鮑。蠣。薺の縁語を以て言祝ぎ奉れるは。是亦

比類なき文なり。祝祭などの祝詞には。此の體を用ゐるべし。さて考ふるに。此の文は。出雲國造の神賀吉詞

より轉化せしものなり。故に神賀吉詞を左に擧ぐ

白玉能大御白髮坐。赤玉能御阿加良毗坐。青玉乃水江

玉乃行相爾。明御神登大八島國所知食。天皇命能手長

大御世乎。御橫刀廣爾。誅堅米。白御馬能前足爪。後足爪

踏立事波。大宮能内外御門柱乎。上津石根爾。踏堅米。下

津石根爾踏凝之振立流事波耳能彌高爾天下乎所知
 食左牟事志太米白鵠乃生御調能玩物登倭文能大
 御心毛多親爾彼方能古川岸此方能古川岸爾生立若
 水沼間能彌若叡爾御若叡坐須須伎振遠止美乃水乃
 彌乎知爾御袁知坐麻蘇比乃大御鏡乃面乎意志波留
 志天見行事能已登久明御神能大八島國乎天地日月
 等共爾安久平久知行牟事能志太米止御禱神寶乎擎
 持氏(祝詞式)

祈願句

此の條は神に祈り願ひ申す詞を擧ぐ
 皇神等能依左志奉牟與津御年乎手肱爾水沫畫垂向股

爾泥畫寄氏取作牟與津御年乎八束穗能伊加志穗爾皇
 神等能依左志奉者(祝詞式)

此の文義は御年の皇神等の天皇へ寄せ奉らむ稻穀
 を天下の百姓の水に浸り泥に汚れて勞き作らむ其
 の稻穀を八束穗の長く茂穗の盛に成幸へ賜ひて天
 皇へ寄せ奉らばと祈はせ賜へるなりかくて初の與
 津御年乎の下に天下乃百姓我の六字伊加志穗爾の
 下に成幸閉賜比氏の六字を省きて含ませたり
 皇神等能寄志奉牟與都御年乎八束穗能伊加志穗爾
 寄志奉者(祝詞式)

こは本文を畧きたるなり

如此奉者皇神等乃敷坐須山山乃自口狹久那多利爾
下賜水乎甘水登受而天下乃公民乃取作禮留與都御歲
乎惡風荒水爾不相賜汝命乃成幸波閉賜者祝詞式

此の文甘水登受の下に志米の辭ありけむが脱ちた
るならむか受而とのみにてはいさゝか事足らざる
が如し文義は今此の如く幣帛を奉るは皇神等の敷
坐せる山々の口より落し下し賜ふ谷水を和永と天
下の公民等が受賜はりて取作る稻穀を暴き雨風に
も遇はしめ賜はずして豊かに稔りたらば又秋の祭
に其の初穂を献りて報賽の禮を行はむといふなり
奉 此宇豆乃幣帛乎安幣帛乎足幣帛止皇神能御心

爾平久聞食氏天下能公民能作作物乎惡風荒水爾不
相賜皇神乃成幸閉賜者祝詞式

こは本文を省きたるなり

公民乃人等我歎支慨牟事乃狀乎米具久悲久思行坐
豆今毛往前毛彌益益爾嚴乃御靈乎幸閉坐氏彼方乃
山乃峽此方乃山乃峽與利雲立騰氏海神乃與津宮方
爾競比和多利豆忽爾天津水乎令降給比或波神鳴利
震動豆穀等傷布蟲乃類乎毛拂比賜比每田乃水口
野澤乃澄水多藝知流豆手肱爾水沫搔垂向股爾泥搔
寄豆取作留與津御年乎始豆朝夕爾耘利培比勞支作
留陸田物等與利山縣爾蒔流青菘之類爾至迄毛成傷

波ハ受ウケ瀾ラン榮エイ爾ニ榮エイ瀾ラン繁ハン爾ニ繁ハン爾ニ八ヤ束ツク穗ホ乃ノ茂イカシ穗ホ爾ニ成ナリ幸キハ閉ヘ賜タマ
比ヒ百ヒャク姓セイ等ト我ガ心ココロ足タラシ比ヒ互ニ惠メ良ラ惠メ良ラ爾ニ笑ワラ比ヒ饒ニギハヤヒ布フ計ケ里リ奇キ之シ
支シ御ミ靈レイ乎カ幸キハ閉ヘ賜タマ比ヒ其ソノ家イヘ内ニ毛モ安ヤス久ク平ヒラ加カ爾ニ夜ヨ守モリ日ヒ守モリ爾ニ
守モリ賜タマ比ヒ矜シヅメ賜タマ閉ヘ止ト古コ學ガク諄シヅメ辭ジ集シユ

皇スメ大オホ御ミ神カミ久クニ見ミ霽ハル志シ坐マス四ヨ方ホウ國クニ者ハ天アメ能ノ壁カキ立タツ極キハシ國クニ能ノ退ヒク立タツ限カケ
青アヲ雲クモ能ノ靄カサミ極キハシ白シラ雲クモ能ノ墜オチ坐マス尙カガ伏フス限カケ青アヲ海ウミ原ハラ者ハ棹カサ柁カサ不ホ干ス舟フネ艦ヘ
能ノ至イキ留トモ極キハシ大オホ海ウミ原ハラ爾ニ舟フネ滿ミツ都ツ都ツ氣キ兵ヘ自ミ陸ツチ往ユク道ミチ者ハ荷ノ緒ヲ縛ム
堅ツク兵ヘ磐イハ根ネ木キ根ネ履フミ佐サ久クニ彌ヤ兵ヘ馬ウマ爪ツメ至イキ留トモ極キハシ長カガ道ミチ無ヒ間マ久クニ立タツ
都ツ都ツ氣キ兵ヘ狹サカ國クニ者ハ廣ヒロ久クニ峻サカ國クニ者ハ平ヒラ久クニ遠トホ國クニ者ハ八ヤ十ジュウ綱ツナ打ウチ挂カケ兵ヘ
引ヒキ齋イハヒ事コト如ス皇スメ大オホ御ミ神カミ能ノ寄ヨリ奉マツル波ハ祝イハヒ詞コト式シキ

此の文首の御名本書に太御の二字なし。今祝詞考に

從ツひて補ホへり。此の文義は。天照大御神の天上に坐し
て。偏アソビく見ミ照シラし坐マスす天下四方の國は。天の遠く壁立つ
如く。國の遙トホに退ヒク立つ如く見ゆる極キハシみ。青雲の遙トホに靄カサ
き。白雲の遠く墜居向伏して見ゆる限り。皇大御神の
寄ヨリ奉マツルり。青海原は。千萬の貢物を積みたる船の棹柁干
す間マヒも無く。其の船の艦先の向ムカひ到イる極キハシみ。大海原に
間マヒも置オケかず漕ソウぎ續ツけて。皇大御神の寄奉り。陸より往
く道は。貢物の荷の緒縛堅めて駄けたる馬の磐根木
根履みさくみ往く。其の馬の爪の向ムカひ到イる限り。道の
長手に斷間無く立ち續けて。皇大御神の寄奉り。又狹
き國は廣かるべく。峻しき國は平坦なるべく。皇大御

神の寄奉り。又遠き國は。敷條の綱を打ち掛けて引寄する事の如く。皇大御神の寄奉らばと祈はせ賜へるなり

馬爪至限。鹽沫至限。天雲乃可血立限。依奉給比。遠國乎。波千尋。田久繩乎。以天懸。依給比。荒國乎。波。太御佩刀。以天平給比。白雲乃退居。青雲乃棚引限。物代乎。依奉給比。曳立者。天止等久。打積者。國止等久。谷古久。乃佐度限。物代乎。依奉給止。申須(丹生祝氏文)

國者限退立。天雲者限壁立。青雲者限棚曳。白雲者限向伏。日正從。月正橫。將聞通焉。陸路者限馬蹄之所詣。海路者限船艫之所泊。將聞通焉云々。石根木立草之片葉。雖

踏碎英雄。聞將死者。一時死之。故雖打置者。如國之廣。曳

立者如高天罪無隱遁申(新撰龜相記)

如此仕奉爾。依氏。今母去前母。天皇我朝廷乎。平久安久。足御世乃茂。御世爾。齋奉利。常磐爾。堅磐爾。福閉奉利。預而仕奉流。處處家家王等。卿等乎。母平久。天皇我朝廷爾。伊加志夜久。波叡能如久。仕奉利。佐加叡志米賜登(祝詞式)

此の文義は此の如くして仕奉るに依りて。現今も將來も大朝廷を平かに安かに事足り物備り。嚴しく茂しき御世に齋ひ鎮め奉り。常磐に易らぬ御世。堅磐に動なき御世に守福へ奉り。又御祭に預りて仕奉れる。處々の官人。家々の王等。卿等をも障る事無く恙し

き事無く。大朝廷に木々の繁榮ゆるが如く。立榮え仕奉らしめ賜へと云ふなり

獻^{タテマツ}流^リ宇^ウ豆^{マメ}乃^ノ大^{オホ}幣^ヒ帛^{ヒト}乎^{コト}。平^{ヘイ}久^ク所^{コト}聞^ク氏^ノ。天^{アメ}皇^ノ我^ガ御^ミ世^ノ乎^{コト}。堅^{カタ}磐^{イハ}爾^ニ常^{トキ}磐^{イハ}齋^{イハヒ}奉^{マツル}利^{トク}。伊^イ賀^カ志^シ御^ミ世^ノ爾^ニ幸^{サキハ}閉^ヘ奉^{マツル}氏^ノ。萬^{マン}世^ノ爾^ニ御^ミ坐^{マシ}令^ト在^シ米^メ給^{タマフ}登^{ノボ}（祝詞式）

參^マ集^ツ氏^ノ仕^{ツカ}奉^{マツル}親^コ王^ノ等^ト王^ノ等^ト臣^ノ等^ト百^{ヒャク}官^{クワン}人^{ニン}等^ト乎^{コト}。毛^モ夜^ヨ守^シ日^{ニチ}守^シ爾^ニ守^シ給^{タマフ}氏^ノ。天^{アメ}皇^ノ我^ガ朝^{チカ}廷^{テイ}爾^ニ彌^イ高^カ仁^ニ彌^イ廣^{ヒロ}爾^ニ伊^イ賀^カ志^シ夜^ヨ具^ク波^ハ江^エ能^ネ如^ニ久^ク立^{タチ}榮^{サカ}氏^ノ令^ト仕^{ツカ}奉^{マツル}給^{タマフ}登^{ノボ}（祝詞式）

これらは。本文を畧きたるなり
御^ミ壽^ス乎^{コト}手^テ長^{ナガ}乃^ノ御^ミ壽^ス止^ト。湯^ユ津^ツ如^ニ磐^{イハ}村^{ムラ}常^{トキ}磐^{イハ}堅^{カタ}磐^{イハ}爾^ニ伊^イ賀^カ志^シ御^ミ世^ノ爾^ニ幸^{サキハ}閉^ヘ給^{タマフ}比^ヒ阿^ア禮^レ坐^{マシ}皇^{スミ}子^コ等^ト乎^{コト}。毛^モ惠^メ給^{タマフ}比^ヒ百^{ヒャク}官^{クワン}人^{ニン}等^ト天^{アメ}下^ノ

四^シ方^{ホウ}國^{クニ}能^ニ百^{ヒャク}姓^{セイ}爾^ニ至^{イタル}萬^{マン}天^{テン}長^{チヤウ}平^{ヘイ}久^ク作^{ツクリ}食^{シヨク}留^{リウ}五^イ穀^{コク}乎^{コト}。毛^モ豐^{ユウ}爾^ニ令^ト榮^{サカ}給^{タマフ}比^ヒ護^ゴ惠^メ比^ヒ幸^{サキハ}給^{タマフ}止^ト（祝詞式）

此の御壽云々の語は。祝詞式の中。いづれにもあることなく。大嘗鎮魂の詞にさへ見えざるを。此の月次神嘗にのみ此の語あるは。疑しき事なり。よりに。普通に之を移さむには。祈年祭神祇宮八座の神等の前に白す詞。また伊勢太御神の太前に白す詞に倣ひて。皇神孫命乃御世乎。手長乃御世登常磐爾堅磐爾齋奉利。我御世爾幸奉利給比といふべし

太^{オホ}宮^{ミヤ}賣^ウ命^ノ登^{ノボ}御^ミ名^ナ乎^{コト}。申^{マウ}事^{コト}波^ハ皇^{スミ}御^ミ孫^{ミコ}命^ノ乃^ノ同^{ナニ}殿^{テン}能^ニ裏^{ウラ}爾^ニ塞^{サセ}坐^{マシ}焉^{コト}。參^マ入^{イリ}罷^バ出^デ人^{ヒト}能^ニ選^{シラ}比^ヒ所^{コト}知^チ志^シ神^{カミ}等^ト能^ニ伊^イ須^ス呂^ロ許^コ比^ヒ阿^ア禮^レ比^ヒ

坐乎言直志和志坐氏皇御孫命朝乃御膳夕乃御膳供奉
流比禮懸伴緒纏懸伴緒乎手躡足躡不令爲氏親王諸王
諸臣百官人等乎已乖乖不令在邪意穢心無久官進米爾
進宮勤爾勤之米氏咎過在乎波見直志聞直坐氏平良氣
久安良氣久令仕奉坐(祝詞式)

此の文義は此の神の大宮内に立塞り坐して出入る
人を監察して其の可否を撰び荒ぶる神の有らむを
ば言直し言和し賜ふを始め大御許に仕奉る伴男等
親王諸王諸官の人等を一つ心に睦和して過つ事
無く漏るゝ事無く事美しく事幸く仕奉らしめむと
守賜ふ神徳を稱へ奉れるなり

櫛磐闢豐磐闢命登御名乎申事波四方内外御門爾如湯
津磐村久塞坐氏四方四角與利疎備荒備來武天能麻我
都比登云神乃言武惡事爾相麻自許利相口會賜事無久
自上往波上護利自下往波下護利待防掃却言排坐氏朝
波開門夕波閉門氏參入罷出人名乎問所知志咎過在乎
波神直備大直備爾見直聞直坐氏平良氣久安良氣久令
奉仕賜祝詞式

此の文義は此の神の大宮の四方の御門に立塞り坐
して四方四隅より荒び疎び來む禍事を待防ぎ又朝
夕の御門の開閉さては出入る人々を監察し咎過あ
らむをば見直し聞直し賜ひて事幸く仕奉らしめ賜

ふ神徳を稱へ奉れるなり。

右の二文は、本來神徳を稱へ奉れる文なり。されど之を祈願に轉用すべき文なれば、此の條に擧げたるなり。いづれの神の御前にまれ、家内上下相睦ひ、家の事家の業を、彌勤に勤め、彌進に進め、災難を防ぎ、幸福を招き、繁榮を祈り奉る祝詞をば、此の二文によりて、綴り成すべし。但し、御門御膳の御の如き尊稱言、また朝廷へ關する語どもは、勤めて省くべきなり。

此乃敷坐大宮地底津磐根乃極美下津綱根波府虫能禰無久高天原波青雲乃靄久極美天乃血垂飛鳥乃禍無久掘堅多留柱桁梁戸闢乃錯比動鳴事無久引結幣魯葛目

能緩比取葺計魯草乃噪岐無久御床都比能佐夜伎夜女能伊須須伎伊豆都志伎事無久平氣久安久奉護留(祝詞式)

此の文義は、皇神の敷坐す大宮の地下は、底津磐根の極みまで、下津綱根を這虫の蝕損ふ事なく、高天原は、青雲の靄く極まで、天の血垂に飛鳥の災する事無く、安かに平かに護奉り、掘堅めたる柱の動くこと無く、桁梁戸闢の錯の鳴る事無く、平かに安かに護奉り、引結べる綱根の緩無く、取葺ける草の噪無く、平かに安かに護奉り、御床都比の騒きの恙しき事無く、夜目の伊須々伎の恙しき事無く、平かに安かに護奉り賜ふ

と云ふなり

此の文また。本來室祝ムロノミヤコの文なり。されども。祈願に轉用すべき文なる故に。此の條に擧げたるなり。地鎮。新殿の諸祭の祝詞は。此の文体に准據すべし

第三章 文例

年始祝詞

(神事略)

挂卷カケマキ母畏カシコ伎某社爾カシコノミヤノ鎮坐須シヅカニ吾皇神乃ミカドノ大前爾オホマヘニ恐美カシコ恐美カシコ母ハハ
白久シラキ拜發イハヒ詞千歲將經山松乎チサヒノミヤノ佐根古士サネノコシ廻根古士ウラネノコシ之氏ノミヤ五
百枝刺小竹取添ヒヤクエダノコトコ氏御門爾ミカドノ挿立サシタテ氏木綿取垂キヌヲ氏端籠乃索ハシノ
引延ヒキノビ氏ノミヤ(裝束)奉留幣帛波ウツクシ千世乃チセノ若水餅境和稻ニホ蠶稻御酒ハハ
方ハ白木シロキ黒木爾クロキニ屠蘇酒ソソ哀母取アハハ竝ナラ豆奉留雜物マメノ哀大御心母アハハ

宇良宜ウラキ豐明爾トヨアカリ所聞食ソノ氏ノミヤ(獻供)天日嗣アマノヒツギ入日月乃イハヒツギノ共無動久トモニ
恒母トコノ奉祈天皇命乃トモニ太御壽衰オホミコノ足長乃タデノ大御命刀オホミコノ堅磐爾ツル常
磐爾ツル幸奉里サキヘマツ親王諸王諸臣オホミコノ百官人等ヒヤククニ此郷乃刀コノ禰男女ニノ天
下四方國乃シタノ公民爾オホミコノ至麻泥爾イハヒ平久安久ヒラキ守福反マモリ給反刀タテ(祈
願)頸根突拔ノド互タテ新年乃始アトシノ朝日乃豐榮升爾アサヒノ稱言奉竟刀ナツ
申マツ拜結イハヒ詞尾ノ

○挂カケ母ハハ畏カシコ伎カシコとは、詞コトバに挂カケけて申マツすも恐れ多しといふ意なり○千歲將經山松乎チサヒノミヤノ佐根古士廻根古士爾サネノコシウラネノコシニとは、千年も生榮えて居るべき山の松を根引にしてといふ意なり○五百枝刺小竹とは、枝の數の多く、さし出でたる竹をいふ○木綿取垂キヌヲとは、木綿キヌを附けて下らすをいふ、木綿とは殺カチの木の皮にて作れるものをいふ○端籠乃索引延ハシノ氏ノミヤとは、標繩シメナヒを引張るをいふ○和稻蠶稻ニホハハとは、精米キヌをいふ○白木黒木とは、白色の酒、黒色の酒をいふ○大御心母オホミコノ宇良宜ウラキとは、神の御心も愉快ユツクイに

思食してといふ意なり○豊明爾所聞食氏とは、神の御顔も赤らむまで、おのがり遊ばされてといふ意なり○郷乃刀禰とは、もとの庄屋、今の村長の如きものをいふ○頸根突抜豆とは、頸を地に衝入るゝほど平伏してといふ意なり

(祭文例)

同
挂卷毛恐伎吾大神能大前爾恐美恐美母白久一拜詞新伎
年能新伎月能新伎日能朝日能豊榮登爾拜氏仕奉流大
御饌大御酒衰皇神能御心爾平久安久赤丹能穗爾聞食
登白須獻供如此仕奉爾依氏今母往前母皇御孫命能御
世衰手長能大御世登湯津石村能如久伊波比奉理茂御
世能足御世爾福閉奉理仕奉流親王諸王諸臣百官人等
衰彌高爾彌廣爾伊加斯八桑枝能如久令立榮給比天下
四方國乃公民等衰守給比惠給閉登(祈願)恐美恐美母稱

辭竟奉久登白一拜結尾

○新伎月能新伎日とは、一月一日の事にて、新年といふ詞より續けていへるなり、新をアタラシといふは實は古言に非ず、中古以來の詞なれば、祝詞には好まじからぬと、如此いひても誤といふには非ず、一月一日と書きて、ハジメノツキノハジメノヒと讀むも可なり○赤丹穗爾聞食とは、前文の豊明爾所聞食といへるにちなじ○今母往前母とは、目前も今後もといふ意なり○皇御孫命能御世衰手長能大御世登湯津石村能如久伊波比奉理とは、今上天皇の治め給ふ御代を、長久に動さなき様に御守り下されといふ意なり、湯津石村とは、五百箇磐群の義なり○茂御世能足御世爾福閉奉理とは、嚴めしく盛なる御代の、物の満ち足りたる御代となる様御守り下されといふ意なり○伊加斯八桑枝能如久令立榮給比とは、木々の繁り榮ゆるやうに、繁榮ならしめ給へといふ意なり

紀元節

(神宮明治祭式)

度會乃宇治乃五十鈴乃川上乃下津磐根爾大宮柱太敷

立高天原爾千木高知氏皇御孫命乃稱辭竟奉留挂萬久
 毛畏伎天照座皇大神乃大御前乎慎敬比恐美恐美毛白
 左久拜發端高天原爾神留座皇親神漏岐神漏彌命以皇
 御孫命乃御世御世大八洲國將知次登天津神乃御子隨
 毛三種乃神寶乎授給比言壽給志任爾畝火乃櫃原乃宮
 爾天下所知志天皇乃始氏帝位所知食志日登中今乃大
 政乃始爾當氏座波此太祖天皇乃廣伎厚伎御德乎重
 美辱美座氏奈毛此乃御祭乎與給氏永代乃御典登
 給倍留任爾今日乃生日乃足日爾齋乃壽辭乎稱辭竟奉
 良久登奏須由緣禮代乃大御食大御酒海川山野乃種々
 乃物乎横山乃如久置足波志氏進留狀乎平介久安介久

所聞食氏獻供皇御孫命乃大御壽乎手長乃大御壽登常
 磐爾堅磐爾齋奉利伊賀志御代爾幸給比阿禮座左牟皇
 子等乎毛惠給比百官人等天下四力國乃公民爾至萬氏
 長久平介久夜守日守爾護惠美幸給倍登祈願恐美恐美
 毛申須拜結尾

○下津磐神大宮柱太敷立高天原爾千木高知とは、神殿の柱を、地の底まで、深く
 突立て、神殿の千木を天上まで高くさし出して、高大に堅固に神殿を造り奉りて
 といふ意なり、千木とは、家根の破風の上に、兩股になりて差出でたる木のとなり○
 高天原爾神留坐、皇親神漏岐神漏彌命以皇とは、天上に御留り遊ばされたる、天皇
 の御先祖の神様の勅定にてといふ意なり○畝火乃櫃原乃宮爾天下所知志天皇
 とは、神武天皇の御事なり○中今とは、唯に今の意なり○齋乃壽辭とは、賀辭の意
 なり○夜守日守とは、晝夜を分たず御守り下されとの意なり

新年祭

(祭文例)

挂卷母恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美。母白久。拜發端大神。
 衰今日能吉日爾。稱辭竟奉良久波。大神能氏子衰始氏四。
 方國能百姓等賀。手肱爾水沫搔垂向股爾。泥搔寄氏取作。
 良牟奧津御年衰。惡風荒水爾令相給波受。八束穗能茂穗。
 爾成幸閉給比。陸田種子等甘菜辛菜爾至流麻傳不成傷。
 布事无久。彌榮爾令榮給比。彌足比爾令足給閉登(祈願)大。
 前爾御食御酒居竝稱辭竟奉久登白。獻供挂卷母恐伎大。
 神祈白須母。驗久神隨成幸閉給波婆。初穗衰婆。秋祭爾獻。
 牟登(感謝)恐美恐美。母白給久登白。拜結尾。

○手肱爾水沫搔垂とは、手の肱から、水の泡が垂れるとにて、苗を植えるなどする時の

ままといふなり○向股爾泥搔寄氏とは、相向へる兩股に、泥を付るとにて、田の草取
 などする時の様子をいふなり、此の兩句にて、苗をふるすより刈取るまで勢を作る
 事を含めたる對語なり○奧津御年は、稻なり○八束穗能茂穂とは、幾握みもある長
 さの熟稔りたる稻穂と云ふ意なり

除蝗祭

(神祭式)

此能所乎伊豆能磐境登掃清氏。神籬立氏。招請奉里。令坐
 奉留御年神。大地主神能御前爾。白久。拜發端神代乃往昔大。
 地主神御田作良志々。時田人爾。牛穴乎令食給比。伎于時。
 御年神能御子。其田爾至氏。御饗爾。唾氏還座氏。父大神爾。
 其狀乎告給伎。於是御年神怒座氏。其營田爾。蝗乎放給比。
 志加婆。苗葉忽爾。枯損禰氏。篠竹成枯凋伎。故大地主神片。
 巫肱。巫乎志氏。占波志米。給比志。時是波御年神能崇奈。

里故白猫白馬白鷄乎獻氏其怒乎解給閉登占相奉伎故
 其占相能隨爾行給布時爾御年神答給久實爾吾御心奈
 里故麻柄乎以互持爾作氏持其葉乎以互拂天押草乎以
 氏押烏扇乎以氏扇仍不去婆溝口爾牛穴乎置男莖形
 乎作添氏蕙子山椒吳桃葉及鹽乎其畔爾班置給閉登言
 教悟給伎是爾大地主神其教能隨爾行給志加波苗葉復
 茂氏年穀豐稔伎由緣故此古事爾依氏御年皇神能御前
 爾絹布乎白猪白馬白鷄三種能代爾取易備奉氏御祭仕
 奉留狀乎平久所聞食氏(獻供)蝗能災乎拂比除伎與津御
 年乎八束穗能茂穗爾成幸閉給開登(祈願)鹿自物膝折伏
 鶉自物頸根突拔氏稱言竟奉久登白(拜)結尾

○伊豆能磐境登掃清氏とは、この所を掃ひ清めて、清淨なる場所としてといふ意
 なり、磐境は磐船などの磐にて美稱言なり○神離立氏、招請奉里令座奉とは、神の
 鎮坐すへき御坐を設けて、それに、神様を御招き申してといふ意なり、神離とは、御
 室城の義なり○片巫肱巫とは、トをする巫の名なり○麻柄が以氏持爾作
 氏持とは、麻柄にて持といふ物を作り、其れにて蝗を掃き落すべしとの意なり、
 持は、糸を巻く道具なり、此より以下四句皆禁厭の術なり○其葉乎以氏拂とは、麻
 の葉にて掃き落したる蝗を拂ひ取るべしとの意なり○天押草乎以氏抑とは、天押
 草といふ草にて、蝗を田の外へ押出すべしとの意なり、天押草とは、玄參のことな
 り○烏扇乎以氏扇耶とは、烏扇といふ草にて、田の外へ押出したる殘の蝗を扇
 き出すべしとの意なり、烏扇は、俗にヒアフギといふものなり、○蕙子は俗に四國
 麥、鳩麥といふものなり○鹿自物膝折伏とは、鹿は、膝を折りて伏すもの故に、そ
 れが様に拜禮してとの意なり○鶉自物頸根突拔とは、鶉は、魚を取らむとて、水中
 に頸を突入る、物故に、その様に平伏してとの意なり

大祓祝詞

(神社祭式)

掛卷母 恐伎 某神社乃御前爾 祠官苗字名 恐美 恐美 毛白
 左久 拜發 詞此縣乃 官人又大神 爾仕奉留 神官等乎 始豆 敷
 坐留里々乃 公民等我 巡犯氣牟 雜々乃 罪事乎 今年乃 六
 月乃 今日乃 夕日乃 降爾 祓物乎 置座爾 置豆 祓清牟 留事
 乎 祓處乃 神等爾 神議々 給比 諸人乃 枉事 罪穢乎 祓給比
 清給倍止 乞祈奉 留事乃 由乎 彌高爾 聞食世止 祈願 恐美
 恐美 母白 須拜結尾

○置座とは、贖物^{アサヒ}を^{アサヒ}せ置く臺といふ○彌高爾聞食とは、よく御聞取下されといふ意なり

宮地鎮謝祭

(祭文例)

掛卷母 畏伎 生井神 榮井神 綱長井神 阿須波神 渡比岐神
 乃 大前爾 恐々 毛白 久 拜發 詞 皇神等乃 敷坐此大宮所乎 今
 毛 往前毛 彌益々 爾守 幸給 氏千代 萬代 毛平乃 安久 下
 動美 寄來牟 地震乃 災无久 大雨 零利水 溢留 登毛 大地乃
 岩崩 傷布事 无久 堅石 爾常石 爾守 給 幸 絡帛登 祈願 禮
 代乃 幣帛乎 捧持 氏 獻供 恐美 恐美 母白 拜結尾

○禮代乃幣帛とは、御禮の棒物といふ意なり、禮代を、禮自、禮自利といふなり、シロは、シ又シリと同語にて、其の物質をいふ

地鎮祭

(神事略)

此地乎 宇斯吐坐須 大地主神 延御前仁 謹々 三母申 佐久
 拜發 詞 此所爾 某官位姓名 乃家 將作爲 氏 由 禮代乃 御酒

御饌奉置(獻供)乞祈白事波。此踏平均須土乃平可爾突
堅牟累磐根乃動事無久。此造良牟家廼棟門廣久高久令
榮炫毘古能神乃荒比給事无久守幸給反刀乞祈白事乃
由乎神隨母所聞食氏相宇豆那比給反刀(祈願)惶々美毛
言_{結尾}拜詞

○炫毘古乃神とは、火の神の御事なり○相宇豆那比給反とは、祈り申す事を、神々の御納受遊ばされよといふ意なり

掛卷母畏支大地主神壇山姫神産土神御前爾白久_{發端}
此乃新室敷居牟此地乎齋鋤齋鋤乎取持天石切平均地
曳平均掃清氏(作行)家居乃地登齋定牟止爲氏(由縁)奉留

(神祭式)

幣帛波由紀乃御食御酒波。甕戸高知甕腹滿並豆山野乃
物波甘菜辛菜青海原乃物波鱒廣物鱒狹物與津海菜邊
津藻菜爾至迄爾如横山置足波志豆奉留幣帛乎安幣帛
乃足幣帛止皇神乃御心毛平介久所聞食豆(獻供)此乃新
壑家地乃底津磐根乃極美下津綱根波府虫能禍無久夜
守日守爾護給比給美給閉止(祈願)鹿自物膝折伏宇自物
頸根突拔豆稱言竟奉久止白須_{結尾}拜詞

新殿祭

(私祭要集)

此能所爾神籬立氏招奉里令坐奉留挂卷毛畏伎屋船命
能御前爾白久_{發端}今與山能大峽小峽爾立留木乎齋斧
乎以氏伐取木末乎婆山神爾祭利豆中間乎持出來氏齋

鋤乎以氏齋柱立氏(作行)某能神能天能御翳日能御翳登
 造仕奉禮留瑞能御殿乎天津奇護言乎以氏言壽鎮白久
 此能敷坐新宮地能底津根根能極美下津綱根波府虫能
 禍无久高天原波青雲能霞久極美天能千垂飛鳥能禍无
 久堀堅多留柱桁梁戸關能錯比動鳴事无久引結倍留綱
 目能緩比取葺留草能噪伎无久御牀都比能佐夜岐夜女
 能伊須々伎伊豆都志伎事无平久安久奉護留神能御名
 乎白久屋船久々運命屋船豐宇氣姫命登御名乎婆稱奉
 里氏今如此造仕奉禮留御殿乎堅磐爾常磐爾奉護里奉
 福良須爾依氏(神德)進留幣帛波由紀能御食御酒波甕能
 邊高知甕能腹滿雙氏山野能物波甘菜辛菜青海原能物

波能廣物能狹物與津毛波邊津毛波爾至麻氏爾維
 々物乎横山能如久置足波志氏奉留幣帛乎安幣帛能足
 幣帛登平久所聞食登獻供十六自物滕折伏宇事物頸根
 突拔氏稱言竟奉久登白(結尾)拜詞

○天能御翳、日能御翳登造仕奉禮留瑞乃御殿とは、天日を蔽ふ爲に造り仕奉りたは、
 美麗なる宮殿といふ意なり○天津奇護言乎以氏言壽鎮白久とは、天上に於て
 事始め給へる、微妙なる祝詞を以ちて、屋船の神の、無事に安穩に鎮坐さし事を
 祝ひ奉るとの意なり○新宮地能底津磐根能極美下津綱根波府虫能禍无久とは、地
 の下は、岩石のある邊まで結び固めたる、床下の綱を、虫の喰損ふ事なくといふ意
 なり○高天原波青雲能霞久極美、天能千垂飛鳥能禍无久とは、天上は、蒼空に至るま
 で高くさし出せる烟出に、鳥の禍するをなくといふ意なり○堀堅多留柱、桁梁戸
 關能錯動鳴事无久とは、堅固に堀立たる柱の動くをなく、又桁梁や戸や關など

の木と木と行合ひたる所の、鳴るとなくといふ意なり○引結留綱目能緩此取葺留
草後噪枝无久とは、柱桁などを結び堅めたる綱の緩むとなく、屋根を葺きたる草の
亂るゝとなくといふ意なり○御牀都比能佐夜岐、夜女能伊須々枝伊豆都志伎事无と
は、晝の間に、神殿の御床の邊に物 喧しきとの恙しきとなく、夜眠れる間に、物
驚くとの恙しきとなくといふ意なり

遷宮祝詞

(神祭式)

此能所乎宇斯流伎坐皇神乃御前爾稱言竟奉久止白
拜端皇神乃志津宮登靜坐車御殿毛璞乃年乃經往波石
上布留備荒爾荒多里是以豆宮地乎掃清氏下津磐根爾
宮柱太敷立高天原仁千木高知豆遠世爾神佐備往牟端
能御殿仕奉支由緣故神籬結固米御船代爾載奉氏天乃
御蔭日御蔭覆物登絹笠刺羽幸行能道乃守止楯矛弓矢

泣氏鳥羽玉能夜吉止人能熟寐爲留亥時爾人垣立氏裝
束神主官位姓名皇神乃御尾前爾仕奉里新宮爾遷奉氏
(行作)奉留幣帛波明妙照妙和妙荒妙爾由紀乃御食御酒
波應邊高知應腹滿雙豆山野乃物波甘菜辛菜青海原物
波鰭廣物鰭狹物奧津海菜邊津海菜爾至迄爾横山如置
足波志豆奉留幣帛乎安幣帛乃足幣帛止平分久所聞食
豆(獻供)天地月日止共爾彌遠長久鎮座登(祈願)十六自物
膝折伏鵜自物頸根突拔豆稱言竟奉久止白須(拜)結尾

○志都宮は、靜かに安かなる宮をいふなり○環は、年の枕詞なり○石上は、布留
の枕詞なり○絹笠は、華蓋にて、絹をもて張りたる傘なり○刺羽は、團扇の長さ
者にて、物を蔽ひ隠すものなり○鳥羽玉は、夜の枕詞なり○人垣とは、垣のやうに

人の並立つをいふなり○御尾前は、神様の前後のをにて、即ち行列の中にて、神靈
を入れたる船代の前と後とをいふなり

遷座祝詞

(秋屋文章)

此岡爾年經留松乃高々爾神佐備座須鳥賀啼東照神社
乎假乃神殿乃合世齋比鎮米奉里我徒賀仰伎乞祈持
伊都久天之御中主神高皇產巢日神皇產巢日神天照
大御神乃御名波申志豆稱言竟奉留四柱乃大神乃大前
爾齋主神田神社祠官權中教正本居豐穎畏美畏美母申
佐久拜發端初我大神乃御前乎齋比奉里神殿仕奉里志事
波天下乃神官僧侶等諸各々教尊職爾任給比下志給比
授給爾留三條乃教憲乎頂爾捧持都々專人民乎志教導

久爾依豆天地乎造里給比又人波更奈里萬物乃造化乃
大元乃座須大神乎婆拜美奉里乞祈奉良受豆波得在良
奴事乃相議里事定米豆神殿波仕奉里伎如是仕奉里豆
有都留乎迦具都知乃神乃荒備刀去年乃一月一日乃曉
乃雲刀烟刀消失奴留賀故爾辛久御靈代乃限取出奉里
豆一度波芝大神宮乃内爾座奉里志乎後爾奈母又是乃
神殿内爾波鎮米奉禮留如是豆新宮作里仕奉良牟刀爲
豆今年乃三月一日與里事始米豆波在都留間爾今度
恐伎也天皇賀大命以豆神官僧侶乃徒賀教業波各々其
道乃隨々別爾導伎諭志教院乎母別爾作里設與刀宣志
給比仰世給比奴故此御前乃事母神官僧侶等相共爾持

伊都伎奉良牟事。布佐波受之在禮婆。更爾事議里事定米。
 耳。既久作里設多留。神道事務局乃內爾還志座世奉留刀。
 今年五月十日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御靈代波戴持。
 耳。是乃假乃御座乎出立志米奉良牟刀須由緣故此事乃。
 狀乎平介久安介久聞食耳。神官教導職等賀忌回里清回。
 里護良比送里御供仕奉留隨爾出座須道乃限々恙牟事。
 無久障留事無久打靡久錦乃御旗高々爾擊持都五百枝。
 眞賢木廣里幸世刀祈願。惶美惶美母白須結尾。

鎮座祝詞

(秋屋文章)

神官賀太玉串刀持忌麻波里持清麻波里捧奉留奧山乃
 五百枝眞榮木上枝爾眞玉乎挂介中枝爾鏡乎挂介下枝

爾劔乎挂介挂麻久母文爾畏伎久方乃別天神天之御中
 主大神高皇產靈大神神皇產靈大神又天皇乃加夫呂刀
 高天原知食須天照皇大神四柱乃命乃宇豆乃大前爾齋
 主神田御社祠官權中教正本居豐額慎美敬比惶美惶美
 毛白佐久拜發端言佐閉久支那人乃言爾云良久兄弟波垣
 本爾爭問抒猶他人爾知良衣自刀須刀云里狩人乃手飼
 乃犬乃友抒知母奧山乃狩場爾互波互爾相守里相助久
 留事乃如久神官僧侶等諸固與里其尊比與會留道異爾
 教乃筋波違問禮抒會母々々何禮乃人可皇大御國乃公
 民奈良邪良牟誰也志人可皇朝廷乃御臣奈良邪良牟今
 外國乃人々盛爾參來交里耳世中乃人心智久明介久開

介行久刀波爲禮拵吉事爾禍事伊都久世乃憚止善久爲
受波異志伎教言母入來牟時爾志有禮婆彌我大御國乃
御手風乎天乃波士弓振起志天下公民等乃心々乎眞鹿
古矢乃只一筋爾教閑導伎於母牟久留古骨中今乃御世
爾在互專勉米勤牟倍伎事奈良米刀相議里相契里誓比
志隨爾皇賀大御言以互各々教導職爾任賜比三條乃教
憲乎下志給比授介給閑留任々神官僧侶乃徒賀神垣爾
引也注連繩一筋爾契結閑留眞心乃赤心爾寄集比互事
議里定牟留所刀大教院乎取設志與里恐伎也我大神四
柱乃大前乎母齋奉里治奉里白妙乃小忌乃衣爾墨染乃
袖差交玉出乃取々爾拜美奉里互在都留乎今度天皇

賀大命以互定給比宣別給比志事乃旨乎畏美奉里承給
波里互神乎敬比國乎愛比人刀在倍伎道乎明良米朝廷
乎重美須留道乃信波固與里變留倍伎事那良麻拵母水
鳥乃教場波各々別爾取設介行波牟刀爲留賀故爾是乃
日比谷乃所乃神道事務局乎以互今與里後神道乃大教
院刀定米國々縣々乃中少教院乎母同志形爾分局支局
刀志專純粹爾惟神乃美志御教波布施佐牟刀是乃東京
爾伊寄集閑留皇大神宮祭主大教正正二位三條西季知
乎始米互大中少乃教正等相議里相談良比互宮々爾母
乞申志事既爾定里奴由緣故今日乎生日乃足日乃吉時
刀卜定米互還座乃御祭仕奉留御供乃神官波大路母狹

爾^ニ成^レ並^ニ列^レ里^リ吹^テ成^ス也^{ナリ}笛^ヲ乃^リ調^ス乃^リ亂^ル々^ニ筋^ヲ無^ク久^ク竹^ヲ芝^ヲ乃^リ浦^ヲ
乃^リ八^重波^ヲ志^ス々^ニ久^ク々^ニ爾^ニ送^リ里^ヲ奉^リ里^ヲ豆^ヲ今^ハ是^レ乃^リ與^ル床^ヲ乃^リ伊^豆乃^リ
眞^ニ床^ヲ乃^リ假^ス乃^リ御^座爾^ニ鎮^メ米^ヲ奉^リ留^ル乃^リ爲^ス豆^ヲ作^ル行^ハ奉^リ留^ル大^御酒^波
行^キ回^リ留^ル庭^乃池^水滿^タ多^ク々^ニ間^ハ大^御饌^波島^回爾^ニ咲^留白^躑躑^躑
白^介盛^上乃^リ廣^物物^鱈狹^物波^朝市^爾海^人賀^運閑^留鮮^介伎^伎
乎^撰里^乃甘^菜辛^菜波^夕川^爾少^女賀^洗布^清伎^乎撰^里山^乃
物^野乃^物種^々御^水御^鹽爾^至留^麻傳^忌机^乃上^母多^和々^々
爾^擊介^奉里^豆豆^献供^拜美^奉里^乞祈^奉留^稱言^乃漏^脫奉^事
乃^在留^乎婆^見直^志聞^直志^給比^豆今^與乃^後此^道乃^立榮^榮
衣^行奉^事波^久方^乃天^乃香^山高^々爾^取與^呂閑^留事^乃如^如
久^ク此^教乃^廣久^至里^渡良^奉事^波大^海原^汐乃^八百^會遙^々

爾^ニ立^レ回^レ禮^留事^乃如^ク久^ク是^レ乃^リ我^大御^國内^波更^那里^靈幸^布
御^乃神^傳訛^里混^閑傳^布留^遠々^志常^世乃^國乃^人皆^毛後^後
遂^爾不^二乃^一高^山高^々爾^仰伎^尊比^寄來^奉賀^禰天^下乃^教
導^職等^諸乃^赤心^爾勤^志美^勉奉^留乎^婆惠^美給^比助^介給^給
比^黑心^爾痴^禮怠^良奉^乎婆^咎米^給比^罰米^給閑^刀祈^願鹿^鹿
自^物膝^折伏^世島^津鳥^頸根^突拔^豆畏^美畏^美毛^祈乃^禮備^備
乃^稱言^竟奉^良久^刀申^須結^尾拜^詞

○神官我云々下枝爾劔乎桂介とは、掛といはむ料の序詞なり○相助久留事乃如久といふより、下文の相議里相契里に續けて見るべし○白妙乃小忌乃衣爾墨染乃袖差交止とは、神官に僧侶のいりまじりてと云ふ意を、それらの服を以ちて綾なせるなり、白妙乃小忌乃衣は白き齋服をいひ墨染の袖は僧侶の法衣をいふ

造竟廊石垣祝詞

(松屋文後集)

黑田廬戶宮爾座。天下所知食氣留天皇乃御子奈賀良
 爾不奉國乎治爲止依佐志賜比乃廬爾廬爾大御身爾太
 刀取帶之御軍士乎安登毛比賜比吉備國遠言向和賜之
 與利此處爾神止毛神止伊都支祭禮流我大吉備津日子
 命乃大前爾申久拜發詞中山乃下津岩根爾真木柱太敷多
 天細谷川乃奈我禮爾都豆支互帶乃如久廻禮留瑞能慮
 由由斯久荒奴禮婆我輩歎愁而國中能人人爾加多良比
 天半波新爾造奴禮打事竟受之互是能年乃年己呂在都
 留乎八多部乃里能龜山道本翁去年乃秋心乎起志互山
 田乃邑乃邑長那里之菊池親芳年老天今者間能人爾在
 遠伊佐奈比須須米奴此親芳老翁此里乃真野守貞翁鳥

羽自醫翁止言合勢力乎合世天美麗久造利奉禮里如此
 須牟也計久其事竟奴流者四人乃翁夜中曉時止休息無
 久淨明心正直言以而諸人乎伊佐奈布爾依天之皇大神
 乃敷座留里能五百里墜事無久民等參來集比真木佐苦
 檜乃孀手乎能勢多流舟波棹柁不干海川爾滿都都氣石
 積多流車者長道無間久立都都氣兵麓乃野方邇如橫山
 積置互造成多留故爾奈母在計留山緣如此造成都留爾
 依互今年文政乃元乃年乃八月五日能日乎生日乃足日
 止撰定互由貴能御酒御餐雜物乎皇大神乃大前爾置足
 波志互(献供)宮司祝部等言壽白志後爾宇事物頸根衝拔
 互祈禱申事者仕奉留吾輩已乖乖不令在護惠比幸倍給

比。廊石垣奈爾止造留爾。物獻利志人人其事取志四人乃
翁參來集比之民乎母平氣久木綿花乃佐加叡志米賜倍
止(祈願)恐美恐美申拜結尾

○黒田廬戸宮爾座皇天下所知食氣留天皇は、孝靈天皇の御事なり○御子奈賀良
爾とは、皇子にて御座るまゝにといふ意なり○安登毛比賜比とは、軍勢を引率てと
いふ意なり○眞木佐苦とは、檜木の枕詞なり○檜乃端手とは、端は假字にて、稜
ある檜木をいふ○己乗々不令在とは、銘を勝手にならず、一致和合する様にといふ
意なり○木綿花乃とは、木綿もて作れる花にて、榮の枕詞なり

造竟御廐祝詞

(松屋文後集)

我皇大神乃大前爾申久拜發端御馬屋乃由由志久荒奴流
乎宮司等歎愁而年經爾之乎今年此國能賀夜郡山内登
云所爾住流中西恒高心遠起志皇國中乃人諸乎伊佐奈

比須須米天遠山近山能大木小木乎打伐採弓持參來
神稅遠不用志天美麗久造利奉理奴伊登毛伊止毛勤志
久大那留功爾奈母有氣留會毛會毛御馬波振立留耳能
高支貴支神乃祭爾者古昔與利必牽立流事爾弓古伎祝
詞爾毛御馬爾御鞍具氏止言支然伊倍婆神乃乘利給布
物爾豆其屋母大與會爾波思布麻自支事爾奈毛有流乎
如此造利奉禮留者喜志久與呂許保志支事爾有氣利由
縁太敷立志柱乎御馬能前足瓜後足瓜志豆石根爾踏堅
米豆波萬千年爾動事無久皇太神乃敷座須地佐夜宜無
久恒高我壽波手長乃壽止幸倍給比其家能内乃人又恒
高爾伊佐奈波禮都留諸人毛平久安久此中山乃松葉奈

須常著爾堅磐爾令榮給倍止祈願恐美恐美毛申須一結尾
○伊登毛以止母は、最最の義なり○振立留耳能高支貴支神乃祭とは、唯尊之神
といふ意なり、振立留耳能は、馬の縁語にて、高さといはむ料の序詞なり○大興會と
は、オホロカ、ナホザリなどいふ意なり

門神祭

(祝詞初學)

櫛磐鬮命豐磐鬮命乃御前爾恐美恐美毛白左久一拜發詞大
神乃夜波夜能明流極美日波日乃暮留々迄此禮乃門邊
爾湯津磐群乃如久塞坐志氏惡事爾相交古利相口會志
米牟刀欲流天之禍都比又貨財乎加蘇比奪波牟刀欲流
盜賊等我四方四角與利疎備荒備來氏前都戸爾伊行違
比後都戸爾伊行違比候波久乎大神乃上乎守利下乎守

利待防岐掃却利言排氣坐須爾依里天神德屋内乃者等
安久穩爾在經留事乎尊美嬉美年每乃今日乎吉日刀撰
定米氏御祭仕奉利稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食
世刀(感謝)恐美恐美毛白須一結尾 拜詞
○夜波夜能明流極美日波日乃暮留々迄とは、終日終夜の義なり○加蘇比奪波牟とは、
掠奪せむといふ意なり○前都戸爾伊行違比後都戸爾伊行違比候波久とは、盜賊など
の行違ひて、表口裏口より入らむとして伺ふといふ意なり○待防岐掃却利言排氣
坐とは、禍神の入來むを待防きて追散し、又言語を以ちて御説退け下さりますとい
ふ意なり

竈神祭

(私祭要集)

八十日日波在扨毛今日能生日能足日爾竈處爾奉齋留
齋火武主比命庭火皇神與津日子神與津比賣神等能御

前仁白久拜發端 璞能年立歸留朝與里年能終能夕麻氏日
 爾異爾賜波留天津火能恩賴乎辱美氏威賜 奉留幣帛波
 由紀能御食御酒波。甕邊高知甕腹滿雙氏山野物波。甘菜
 辛菜青海原物波。鱒廣物鱒狹物。奧津海菜邊津海菜爾至
 麻氏爾雜々物乎。横山能如久置足波志。奉留幣帛乎。安
 幣帛能足幣帛登平久所聞食氏獻供 咎過在牟乎。婆見直
 志聞直志坐氏御心一速備賜婆受朝食夕食爾幸閉給閉
 登祈願十六自物膝折伏。宇事物頸根突拔氏稱言竟奉久

登白結尾

○日爾異爾は、日々といふに同じ○御心一速備賜婆受とは、御腹立になりて荒び給ふ事のなきやうにといふ意なり

井神祭

(祭文例)

挂卷母畏伎彌都波能賣神御井神鳴雷神乃大前爾畏美
 畏美毛白久拜發端 此御井乎廣久厚久守賜比幸賜比氏千
 代萬代毛奴流牟事无久濁留事无久濁留事无久淺留事
 無久和伎水乃甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水乎彌多爾
 彌廣爾授賜比與賜比諸乃穢乎祓給比清給比過犯事乃
 有牟乎婆見直聞直坐氏夜守日守爾守幸給閉登祈願禮
 代乃幣帛乎捧持氏獻供 恐々毛稱辭竟奉久登白結尾

○千代萬代母奴留牟事无久濁留事无久酒留事无久淺留事无久とは、千萬年の後と

雖も、水のぬるみたり、濁りたり、乾き酒れたり、底の淺くなりたりするをなくとの意なり、ぬるむは、水の悪くなるをいふ○和伎水乃甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水と

いふも、水をはめていふ詞には、畢竟善水といふ意なるを、如此語を重ねて唱ふるが、古文の體にて、祝詞にて此の例多し

出船祭

(私祭要集)

此能所爾神籬立氏招請奉里令座奉留底筒男命。中筒男命表筒男命能御前爾白久拜發端今月今日乎生日能足日登齋定氏船出爲牟乎大神等能和魂荒魂此船能舳爾毛。繼爾毛神留里宇斯波伎坐氏棹柁誤多受大海原波吹風能荒留事无久立浪乃騷事无久水上波地往我如船上波床爾居如指寄牟磯乃崎々漕果牟泊々爾障留事无久平久安久令有通給閉登禱白事乎枕音能都婆良々々々爾所聞食登(祈願)十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏稱言

竟奉久登白拜結尾

○和魂荒魂云々は、神功皇后の御故事に據りていへるなり○枕音能都婆良々々々爾とは、詳に聞食せとの意なり、櫓の船柁にてすれる音の、つばらゝゝと聞ゆる故に、かぢのかとの委曲と云ひ係けて枕詞となり

祈漁祝詞

(神事略)

言幕母綾爾畏伎吾大神乃御前爾懼々三母申佐久拜發端此郷能漁夫等間者海幸失比和備都々居乎相恤三相慈給比氏大海乃巨口細鱗等衰追聚米天海人等我網子調反氏引網乃綱目不泄引網乃綱手不緩佐々和々爾令曳揚給伐荷前方横山乃如久引居置氏奉牟刀(祈願)禮自利乃御幣捧持氏(獻供)祈請奉久刀言拜結尾

○引網乃綱目泄不、引網乃綱手不緩とは、綱の目より魚も脱れず、又綱の綱も緩ず

との意なり○佐々和々爾令良揚給とは、噪々と漁夫どもの喧しく騒ぎて、網を引
さわけて、多く魚を捕らせたまへとの意なり

祈獸獵祝詞

(祝詞初學)

某乃大神乃御前爾畏美畏美母啓左久拜發大神乃往昔
與理吾我地刀主佩坐須此山爾波鹿甚多久氏戴在角故
枯木末如志聚閉留脚波若木原類志噴介留息波朝霧似
世利故山麓耳家居志氏山幸得多類獵夫等波奔火乃玉
筒負比氏朝爾異爾伊行伎狩禮扨母盡流事無久隨分利
潤乎得都留毛偏耳大神乃御恩賴耳由留事刀嬉美謝保
比乍在來志乎近伎頃與里鹿等何方閉加散禮失世氏終
自覓介扨母其乃乾迹陀爾見衣受然許多有利志物能頓

爾盡伎奴可久波阿羅自若大神乃御心耳不志已利給布
事有利氏隱志給閉留爾加刀(由緣)獵夫等一同畏懼萬利
大前耳種々乃御餐乎奉利(獻供)祈白須狀乎憫美給比惠
備給比過犯志氣牟罪咎波神直日大直日仁見直志聞直
志給比氏往日乃如山幸忒波受鹿多仁寄志賜波婆志我
角波御笠乃林志我耳波御墨斗目波眞澄鏡爪波御弓乃
弭毛乎御筆爾製利皮乎御箱仁覆利突刀臙乃波御繪林
刀爲氏養乃禮代爾奉良牟登申須事乎平介久安介久聞
食氏乞乃隨爾幸閉給閉刀(祈願)畏美畏美毛啓須結尾
拜詞

○奔火乃玉筒とは鐵砲の事なり、此器は和名無くして國語にいふ事甚困難なるを、
先かくいひて文をなせるなり○不志已利給とは、憤り給ふをいふ○乾迹とは、空

跡の義にて獸の足跡をいふ○御笠乃林とは、御笠の飾にするとなり、ハヤシは合榮といふ義なり

祈雨祭

(私祭要集)

此里能宇夫須那神登持崇久掛麻久毛畏伎皇神乎始奉
里高籠神闇籠神天水分神國水分神天之久比奢母知神
國之久比奢母知神天津神千五百萬國津神千五百萬能
皇神等能御前爾白久發端此頃久久雨降受日能累禮婆
道志田毛蒔志畠毛涸美枯奈牟止為賀故爾百姓等憂左
麻與比世武為便不知仰氏待天津水乎大神等相宇豆能
比給氏高山能末短山能末里與雨雲立保備古里光神鳴
波多多伎氏速雨頻爾令降氏貯留端山能池波堤爾堪開

塞上氏麻加須流水波田每爾滿氏百姓能作登作物波五
穀乎始氏草能片草爾至麻氏成幸閉給閉止禱白須事
乎進留黑馬乃耳彌高爾所聞食登祈願恐美恐美毛白須
拜結尾

○雨雲立保備古理とは、黒雲の空一面に立廣がるをいふ○光神鳴波多多伎氏とは雷のごろくと鳴るをいふ

祈晴祭

(私祭要集)

此里能宇夫須那神登持崇久掛麻久毛畏伎皇神乎始奉
里高籠神闇籠神天水分神國水分神天之久比奢母知神
國之久比奢母智神天津神千五百萬國津神千五百萬能
皇神等能御前爾白久發端此頃雨雲久久覆比霖雨降氏

高山能未短山能未與里佐久那太理爾落瀧都川能瀨溢
兵百姓能作物波五穀乎始草能片葉爾至麻氏不
生傷問留賀故爾百姓等憂歎伎氏寐毛不安佐麻與比有
乎大神等相宇豆那比給氏雨雲乎科戶能風能氣吹掃氏
天津日能伊照徹良志百姓乃作物波五穀乎始草
乃片葉爾至麻氏成幸問給閉登禱申須事乎進留白馬能
耳彌高爾所聞食登祈願恐美恐美毛白須結尾
拜詞

吉備津神社例祭

(松屋文後集)

中山乃此美豆山能麓乃磐根爾宮柱太敷立高天原爾千
木高知流吉備津宮乎常宮止定賜比氏神長柄神佐備鎮
毛里座須我皇大神乃大前爾稱辭竟奉流發端倭文手經
拜詞

數爾母不在某我言麻久毛綾爾恐計度皇大神乃御名波
比古伊佐勢理毘古命亦御名乎大吉備津日子命止申故
者針間能氷河乃前爾忌益居居天地乃神爾乞禱賜比針
間乎道口止爲是此吉備國乃荒夫流神不奉仕人乎言向
和賜波武止天皇乃御子奈賀良所念看是御腰爾太刀取
佩志御手爾弓取持之軍士乎率伊佐奈比氏背向奉流者
乎擊賜比和賜布佐麻波科戶之風爾天雲乃晴留事能如
久朝日之影爾露霜能消留事能如久爾奈母有祜德其御
功爾與利天稱奉里是大吉備津日子命止申爾奈母神德
如是有婆古昔與利朝廷爾是波齋比賜比伊都支賜比東
國乃大城爾座是天下申賜布大臣命波御刀代田乎寄奉

理賜比豆(感謝)宮司祝部等爾御祭乃神事乎伊曾之美豆
奈怠利會止告賜布廣支厚支命乎頂爾受賜利恐美持豆
坂樹葉奈須年中乃繁支神事無緩怠此九月乃中申日
者殊爾伊都支奉流日爾之有禮婆祖名繼豆奉仕留宮人
乎三爾別豆神遊爲流歌人乃登毛婆大前爾並居氏未通
女乃舞能袖返須返利毛歌宇多比御膳人乃登毛波木綿
手次可比奈爾懸而白酒黑酒荒稻和稻爾海川野山爾生
流種種乃物乎取添置高成流御机阿麻多捧氣白幣帛青
幣帛乎持參來集比今一群能宮人者御橫刀御弓御梓奈
爾登乃神寶衰數々持參利豆貢理御馬率立豆大御祭仕
奉里奴獻供如此仕奉爾依豆今母去前母天皇我朝廷乎

始大城爾座須大臣命乎母平久安久山松之根乃遠久堅
磐爾常磐爾福閉奉利賜比天下四方國佐耶宜無久仕奉
留宮人等乎母事無久喪無久護利惠美賜倍登祈願某等
諸共爾阿布藝乞乃美布之豆額都枳恐美恐美毛申給波
久止申結尾
拜詞

○倭文手纏は數の枕詞なり○忌鏡居豆は清淨なる酒壺を、地に、堀居てといふ
意なり○東國乃大城爾座豆天下申賜布大臣命とは當時の徳川將軍をいふなり
○佐耶宜無久は、騒々敷となくといふ意なり

砥鹿神社例祭 (古學諄辭集)
參河國寶飫郡一宮村乃底都岩根爾宮柱太知立豆鎮坐
須砥鹿大神乃宇頭乃御前爾官位姓名慎美敬比恐美恐

美毛申佐久拜發端大奈牟智大神止御名波白之互稱辭竟
奉流神乃命波之毛神代乃始乃時須佐之男命乃御詔乃
隨爾彼大神乃生太乃生弓矢乎以互御庶兄弟奈流八十
神乃荒振神乎追撥比賜比打誅米賜比比國造始米賜比
又皇產靈神乃勅爾依互其神乃長子爾坐須少名毘古那
神止御兄弟止成坐比御心乎睦比御力乎合世坐比國巡
作堅米賜比伊邪那岐神乃真名兒熊野加夫呂岐奇御氣
野命乃依佐之賜比授祢賜閉流五百津鈕乃神鈕乎取持
賜比互葦薦菅乎殖生之互水月如須浮漂布國地乎堅米
作利賜比少御神乃常世國爾渡利坐之後波和魂大物主
神止相共爾廣予乎御杖止為突互國巡賜比豐葦原中國

乎悉爾順從爾賜比互宇之波伎坐爾依互大國主神止白
之又國作大名牟智神止白之又顯國玉神止白之又夫名
持神止御名爾負麻之又千劍破荒振神言問布若根木根
青木沫乃類乎平祢和之賜比令言止賜比不降伏慈支神
不和親穢伎鬼等乎討誅米賜比追攘比坐互武支強支御
稜威座坐爾依互葦原醜男神止白之又八千矛神止毛稱
白世理又愛之伎蒼生乃病乎憐美賜比互少名毘古那神
止議坐比藥湯乃道止病乎療須流方止乎始賜比飛禽走
獸昆蟲乃灾乎攘牟止為互其呪乃法乎定賜比比是乎以
天照大御神乃御詔以比皇美麻命乎天降命坐牟止為賜
天照大御神乃御詔以比皇美麻命乎天降命坐牟止為賜

布時先經津主神武甕槌神二柱神乎下之賜比互大神爾
問之賜波久汝我宇斯波祁流葦原中國波我御子之所知
國止言寄之賜問理御勅乃任奉良牟邪止問之賜比志時
爾恐之詔乃隨此葦原中國波獻良牟吾避奉良婆誰可毛
麻都漏波奴者有牟吾兒等百八十神波八重言代主神神
乃御尾前止成互仕奉良婆違布神波有良自吾所知顯明
事波皇美麻命所治賜問我波隱氏幽冥事乎將治止白賜
比互大八洲國現事顯事事避賜比皇美麻命乃鎮利坐牟
大和國止白賜互已命乃和魂乎八咫鏡爾取託乎倭大物
主櫛應玉命止御名乎稱互大三輪乃坐奈備爾令坐味耜
高彥根神乃御靈互葛城乃鴨乃神奈備爾坐世言代主神

乃御靈乎宇那提乃神奈備爾坐世賀夜奈流美神乃御靈
乎飛鳥乃神奈備爾令坐氏天神乃御子命乃近支守神止
貢奉置賜比又其平國賜比之時爾所杖賜問流廣矛乎經
津主神武雷神爾授祁賜比互白賜波久吾此矛乎以氏卒
爾治功乎成世利皇美麻命此乎以互國治賜波婆必幸久
坐牟止白給比又岐神波吾爾代互可奉仕止二柱乃神爾
進賜比互即躬瑞之八尺瓊乎披互八雲立出雲國奈流
八百米杵築宮爾長爾隱鎮座坐支神德如此是國土造利
固米賜比之御勳功乃大奈流止目爾不見幽事乃機原乎
總知利賜布御恩賴乃忝支止波言麻久毛更也白古皇
我大朝廷乎奉守奉助天下乃蒼生乎撫賜比惠賜布高

支貴支恩賴乃大座坐爾依豆。後藤原宮爾馭寓天皇乃
 御代爾御田地奉利賜比。神事仕奉賜之自利。天皇我御世
 乃繼繼久之支世世乎歷豆。無絕事无闕事。神事仕事來豆。
 東乃遠朝廷爾天下乃大政。聞食須御世止成豆毛。御戶
 代多爾寄佐之賜閉婆。神官等我家門。無荒事宇麻波利榮
 耳古乃法乃隨爾。无違事无漏事。御祭仕奉牟止爲豆(或謝)
 此五月乃初四日乎。生日乃足日止。隨例齋定氏神主乎。
 始豆神官等各大海乃清支渚爾身滌祓之。伊豆乃眞屋爾
 忌許母利豆。大前爾來八集豆。捧奉流物等波。新磨乃米以
 豆。炊那流御饌乎。彼方乃野乃上爾。生流薄以豆。包作禮流
 御粽止。歌比都々舞比都々造利仕奉禮流。一夜酒止乎。各

持寄利滿並倍獻利置氏。由志利伊豆志利奉齋狀乎。神隨
 所知看氏獻流多米都物乎。安幣帛乃足幣帛止。平那久安
 那久聞食受賜比豆(獻供)今毛往前毛。天津日嗣乃高御座
 爾顯津御神止。大八洲國所知須皇孫命乃大御世乎。足長
 乃大御代止。堅石爾常石爾奉齋嚴之御代乃足之御代爾
 幸閉賜比。食國天下爾道速振荒振事無久。遠伎島島遙那
 支磯乃岬不落。令治坐賜比。親王諸王諸臣乎始氏。仕止仕
 布流百官乃人等乎。平那久安那久守賜比豆。天皇我朝廷
 爾茂之八桑枝乃如久。立榮延令仕奉賜比。東乃遠朝廷爾
 食國乃事執持豆。政基知賜布大將軍乃御末波。樛木乃彌
 繼繼爾永久久玖。武支稜威乎。彌高爾彌廣爾。輝加之令榮

賜比生坐御子等與利御族御屬爾至流迄彌榮爾令榮賜
 比此所乎領須吉田乃城主松平君乃武支稜威乎日爾異
 爾令榮賜比所治留百姓乎毛令惠賜比四方國乃蒼生等
 種種乃禍无久取作留五穀乎始氏草乃片葉爾至迄作
 止作留物等乎惡風荒水爾不令相賜八束穗乃茂穗爾成
 幸閉賜比大神乃鋪坐須此鄉爾生出流氏子等乎无漏事
 无落事守賜比於賜比氏枉神乃枉事不令有天乃益人
 國益人止生出令榮賜比其持分流家業乃各立榮氏繼
 繼爾饒波布地止令成賜比御社爾奉仕神司等我家內安
 久穩爾諸乃災波不萌前爾遠久伊噴拂比賜比過犯須事
 乃有乎婆見直之聞直之坐氏夜乃守日乃守爾護賜比幸

閉賜閉止祈白須事乃由乎平邪久安邪久聞食受賜閉止
 (祈願)鹿自物膝折伏世鶴自物頸根突拔豆恐美恐美毛白

須結尾

辭別氏白佐久發端今日乃神事爾仕奉流神主祝等與利
 始氏村內乃氏子里里乃百姓等總豆此齋場爾參人集氏
 大神乃御德乎仰奉利恩賴乎乞祈奉流人共波各荒忌
 眞名忌之豆忌清回利都禮村百千千人乃參集彼禮留
 中爾波不慮穢不思過有止毛神直毘大直毘爾見直之聞
 直之坐氏咎賜布事毛無久崇賜布事毛无久夜乃守日乃
 守爾守利賜比幸閉賜閉止(祈願)畏美畏美毛白須結尾

○宇頭乃御前は、貴御前といふ意なり○眞名兒は、最愛子の義なり○五百津組乃神

鉏は、五百挺の銀の意なり○常世國は、外國をいふなり○八咫鏡は、徑の彌咫の
る鏡といふ意なり、咫は、片手の廣さといふ○大三輪乃神奈備は、大三輪の神社の
意なり○瑞乃八尺瓊は、瑞は美麗の義にて、八尺瓊は玉の美稱なり

山室山神社大祭

(秋屋文章)

神風乃伊勢國豐御食乃飯高郡乃此松坂乃里近伎岡本
乃清伎地爾眞水柱保米豆祝比豆御稜威乃高知留宮乃
仕奉禮留山室山神社乃宇豆乃御前爾畏美拜美毛白佐
久發端掛卷母畏伎天神諸乃大命以豆伊邪那伊邪那
美二柱命爾事依志賜比二柱大神神議々里賜比豆國生
成修理固米賜比神生成事始米賜比之此天下爾所在百
八十國乃國乃本國止我大日本是乃大八洲國波志毛神
漏岐神漏美乃命以豆皇孫命乃御代乃繼々天地乃牟多

無突爾知佐牟國乃大御手豆加良大御璽乃神寶乎毛授
氣事保賀比定米賜比之隨々久方乃安乃河水流禮豆清
久唯一筋爾受傳坐須高御座高伎貴伎天津日繼乃御傳
記乎始米豆上古乃事乃條々書記之多留書乃卷々讀明
之說辨布留石上古事學乃道者志毛水鳥乃羽倉大人伊
稻荷山嶺之矛楨高久嚴志久言論比坐氣留乎水莖乃岡
部大人伊其心乎受繼之引馬野乃小野乃榛原深久廣久
說明志賜比之學乃統毛彌々太久益々明氣久成行久時
來向布止大御神乃鎮坐須此神風乃伊勢國與里我秋津
彦美豆櫻根大人命伊世爾所顯坐豆神路山深久遠久道
乃與處乎認米明之五十鈴川清久佐夜氣久倭心乃眞乃

旨乎說定米賜比之爾依豆古曾神乎敬比天皇乎尊毘我
 國乎重美須留真心乃雄心振起須人々毛國々爾出來爾
 氣禮其學乃道爾勤志美勞久人々多那里之中爾毛神靈
 眞柱大人命波其靈乃眞柱乎太久嚴志久突立其學乃道
 乎毛彌張爾彌廣爾漢土印度乃書乃卷々乎佐閉繰返志
 讀豆世乃人乃惑閉留心乃雲霧乎級戸乃風成伊吹伎放
 知雄誥爲都々導支說志氣留乎以豆劍太刀稜威乃利心
 乎振起志言論布人々盛爾成來多留後遂爾明治乃此新
 世乃大御世止成豆大人等乃年來慨美歎伎賜比之御心
 毛青雲乃綠乃空爾登留日乃限無久伊照曜久世止成豆
 波其年頃乃勳績毛所顯之乃美爾非受畏伎大命以豆正

四位乃位乎贈理賜比又幣帛代乃金乎賜比此神社乎改
 米造留事爾依豆毛物多爾賜比之事等波大人等乃神靈
 毛天翔里國翔里畏美與呂許保比御心足比爾所念志氣
 牟神德如此豆是乃神社毛仕奉里竟奴留乎以豆其神靈
 乎遷志齋比奉里之日乎生日乃足日乃大御祭日止定米
 之例乃隨々九月二十六日乃今日乃朝日乃豐榮登爾
 神官等諸集侍理豆(由緣幣帛波照妙明妙爾豐御饌豐御
 酒海川山野乃机代物乎橫山成置足波之捧奉里是乃三
 重縣乃官人乎始米豆郡長市長及御社乃事爾勤志美勞
 氣留人々波更那里遠伎近伎所々乃人等伊群集比或波
 思布意乎歌比言舉或波狀々那留和射袁伎乃遊爲豆賑

畏樂美合布事狀乎母御心母穩爾聞食豆(献供)掛卷毛畏
 伎皇賀大御代乎彌真盛爾立榮衣坐志米奉里我御國乃
 御稜威乎彌高爾曜加志米奉里又學乃道爾伊多都伎勉
 留人々乎守里贊氣豆思比得難爾苦牟事波速氣久思比
 得之米遠閉留方爾惑閉留心波真直爾改米悟良志米賜
 閉刀乞祈豆如是仕奉留式乃漏落過多牟事等波廣伎御
 心爾見直志聞直志相宇豆那比賜閉刀(祈願)齋主某忌志
 理嚴志理畏美畏美毛稱言竟奉良久刀白須(結尾)拜詞

○豊御食乃、飯高の枕詞なり○御稜威乃、高知留宮とは、神徳の著明なる宮といふ
 意なり○大御聖乃神寶は、三種の神寶のとなり○水鳥乃、羽倉の枕詞なり○稻荷
 山嶺乃、高久殿志久と云はむ料の序詞なり、稻荷山は、京都の稻荷山にて羽倉大

人の生地なる故に、かく綾なせるなり○水蒸乃、岡部の枕詞なり○引馬野乃、小野
 乃、榛原は、深久廣久といはむ料の序詞なり、岡部大人は、遠州の産なる故に、其の名所
 を以ちてかく綾なせるなり○秋津彦美豆櫻根大人命は、本居大人なり○神靈眞
 柱大人命は、平田大人なり

祭二靈祝詞

(鈴屋集)

掛麻久母畏支崇道盡敬皇帝命乃大御靈寧樂大朝乃民
 部卿太朝臣命乃御靈一柱乃御靈乃御前爾姓名等恐美
 恐美母申給波久登申須(發端)皇帝命波日本書紀乎撰比
 給比朝臣命波古事記乎記志給比豆天地乃判志時與利
 神乃御代乃御代御代乃七御代乃御代御代五御代乃御
 代御代天皇命乃遠都御代乃御代御代乃天津日嗣乃御
 次手乎始豆世間爾有登志有祁牟雜雜之故事乎漏流事

無久落流事無久委曲爾撰比給比記志給互天地之共彌
遠長爾大皇朝廷乃大御寶登遺志給比傳開給布廣伎厚
伎大御惠爾依豆志(神德)千年五百年乃後乃世爾遠遲奈
久拙伎某等我友賀良爾至麻豆爾遙那伎神代乃有那流
形乎宇迦迦比尋爾豆明那伎貴伎御世乃意乎百箇我一
母悟知事得豆志有流恩賴乎二乃御書讀奉流度每爾頂
爾捧持豆畏美宇禮斯美奈母思給布感謝故是以今年乃
某月乃某日乎生日乃足日登擇定豆某之宅乃與乃小床
乎伊豆乃磐境登掃比清米豆與山乃小柴之枝乎打折持
來豆伊豆乃眞坂樹登二所爾刺分波夜志齋比奉豆(裝束)
和幣取置伎忌食居並倍海山乃多米都物乎負奈負奈机

代登貢奉且献供恐美恐美母申佐久二柱命乃御靈等今
如是刺立齋奉流神籬爾唯暫時之間天翔依來坐豆漏落
牟事乎波神直畏大直畏爾見直志聞直志坐豆貢奉禮流
物乎神隨平那久安良那久所聞看豆今母去前母某等之
學乃業乎彌助爾助給比彌弊米爾弊給比豆八十禍津日
乃禍事有世受夜乃守日乃守爾守幸閉給閉登(祈願)某等
諸共爾牝鹿成膝折伏世鵜自物頭根衝拔豆恐美恐美母
申給波久登申(結尾)拜詞

祭祖靈祝詞

(古學諄辭集)

謹美敬比豆遠津御祖乃御靈代代乃御祖親族諸御靈
等乃御前爾子孫姓名近伎郷郷乃大神等爾仕奉留神主

等諸共爾鹿自物膝折伏世鵝自物頂根突奴伎豆恐美恐
 美白須拜發端天避留鄙知布鄙乃中爾毛此乃上津總國伊
 隈長柄乃邊波毛鳥我鳴吾孀國乃東乃極美朝日乃直指
 須海原近伎鄉々爾豆上津代波鄉人等生出留隨爾表裏
 乃心逆志良心有事無久清伎赤伎眞澄鏡乃曇奈伎心爾
 奈毛有祁禮婆一向爾皇美麻命乃大御面向祁爾順比奉
 里種々乃取行布和射乎毛總氏古事乃例爾做比氏勤美
 行比來爾祁流遠三栗乃中津代爾至里豆蟹我行橫佐乃
 道乃參渡里內日刺都乎始米四方乃鄉里野乃底山乃底
 萬氏弘基里氏皇大御國乃古事廢禮大神等乃御稜威毛
 彌隱里爾隱呂比行伎豆宮人等我仕奉留神業波歲爾異

爾卑志米貶佐延都々伊武勢伎布勢廬爾屈美豆居禮婆
 佐賀無伎人等波橫佐乃道乃時米久爾毛智鳥乃拘良比
 泥美豆其方爾相麻自古理相口會豆己我仕奉留御社己
 我家乎毛退伎去理豆永久其迹乎斷爾志人毛多加留爾
 (由緣)辱久雄々志久毛吾家乃御靈等與當昔次々乃荒廢
 乎之毛痛久忍婆志都々仕奉禮留御社其家乃子孫乃嗣
 嗣彌遠長爾守里保知豆今爾傳閉給閉流事波最毛尊伎
 辱伎恩賴爾奈母有祁留神德此如久尊支恩賴爾依豆奈
 牟今之毛玉幸波布大神等乃御心登古學比乃宇麻志大
 人等次々爾世爾出坐氏神代乃故實見之明良米顯事幽
 事萬乃由緒乎毛詳爾說明志世爾教悟志給比豆日爾月

爾惟神奈留御道乎。慕比學夫徒澤爾出來。大神等乃御
稜威波漸爾古昔爾立復里照輝伎宮人等毛大神等乃稜
威乃御光乎蒙里。牟具良繁禮留布勢廬乃柴乃破戶乎
推開伎。尊伎御道乃片端乎毛手取行比。正道乃正直
奈留趣橫佐乃道乃橫佐奈留趣乎毛窺比知留々事登奈
母成奴留波自今後彌益益爾。此學乃榮行久御世止成那
車事乃甚嬉志久歡志伎爾就。姓名奈毛其恩賴爾報奉
留止志。世世乃御祖能御祭殊爾任奉良麻久思比立奴
流時爾合世。近伎鄉々乃常母睦魂相閉留神主等毛同
樣爾其御祖等乃恩賴乎蒙禮。各毛各毛互爾其家家
廻里。御祭相助。那都々仕奉牟登言布爾語合。互(感謝)今

日子生日乃足日登擇定米。姓名我與津小床。伊豆能
磐境登掃清免。真山乃賢木乃枝乎打折持來。伊豆乃真
坂樹登二所爾刺立時乃花乎毛取添。神籬成波夜志齋
比立奉。互(裝束)姓名我弱肩爾太襪取掛。互持齋麻波里持
清麻波里造理仕閉奉禮留一夜酒登我爾波安良受石多
多須常世爾在須久斯乃神少御神乃釀志御酒登乎。白木
黒木登。甕益高知里甕腹居竝倍。百杵乃八百杵爾杵突伎
仕奉禮留餅乃鏡時自久乃香能菓種々爾栗實柿實梨實
洗米。赤飯。堅鹽御毛比。大野原爾生留物波。甘菜辛菜乎始
米種々乃物。青海原爾住物波。鱈乃廣物鱈乃狹物。大海仁
生流物波。廣和布荒和布若和布乃。與津藻葉邊津藻葉爾

至留麻氏爾。今日爾禮代。御饗乃物登。各毛持寄滿竝。倍立奉豆(獻供)恐美恐美。母申佐久。遠津御祖。代代乃御祖。親族乃御靈等。今如此久。刺立齋比奉流神乃小床爾。天翔來坐。此獻奉流多米都物乎。御心母和親爾。平介久安良介。久安幣帛乃足幣帛登所聞食豆。姓名我家爾毛身爾毛。枉事有世受。夜乃守日乃守爾。守幸閉宇豆那比給比子孫。乃八十相續伎。無窮爾根母碁呂爾。吾御社爾勤美仕奉志米。學問乃道物書久業乎毛勤志米。家名乎毛貶佐志米受。遠長爾御祭善志久仕奉志米給閉止(祈願)今日乃御祭爾相集。閉留神主等諸共爾。鶉成竝居宇自物頸根衝拔豆。平手打上。祈拜美恐美恐美。毛申給波久登白須。結尾拜詞。

○天避留は、鄙の枕詞なり○鳥我鳴は、東國の枕詞なり○三栗乃は、中の枕詞なり○毛智鳥乃は、拘の枕詞なり○時自久乃香能菓は、本來橘實のとなれども、こゝは查柑などいへるなるべし

六月月次祭

御門乃御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久。發端櫛磐間門命。豊磐間門命登。御名者白氏辭竟奉者。四方能御門爾湯都磐村能如久塞坐氏。朝者御門開奉夕者御門閉奉氏。疎布留物乃自下往者下乎守自。上往者上乎守夜乃守日乃守爾守奉故(神德)皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎。(獻供)稱辭竟奉久登宣。結尾拜詞。生島乃御巫能辭竟奉皇神等乃前爾白久。發端生國足國拜詞。

皇御名者白玉辭竟奉者皇神乃敷坐島乃八十島者谷
能狹度極鹽沫乃留限利狹國者廣久嶮國者平久島乃八
十島墮事無久皇神等寄志奉故神德皇御孫命乃宇豆乃
幣帛乎獻供稱辭竟奉久益宣拜詞 結尾

この月次祭以下の祝詞は延喜式より採れる古文な

遣唐使時奉幣

皇御孫尊乃御命以氏住吉爾稱辭竟奉留皇神等乃前爾
申賜久拜詞大唐爾使遣佐牟止所爾依船居無氏播磨國
與理船乘為氏使者遣佐牟止給念行間爾皇神命以氏
船居波吾作牟止教悟給比支神德教悟給比那我良船居

作給部禮嘉悦已備嘉志美或對禮代乃幣帛乎官位姓名
爾令捧寶進申久登白拜詞 結尾

此の文は結尾句をも兼ねたる格なるべし

春日祭

天皇我大命爾坐世恐岐鹿島坐健御賀豆智命香取坐伊
波比主命枚岡坐天之子八根命比賣神四柱能皇神等能
廣前仁白久拜詞大神等能乞賜比能任爾春日能三笠山
熊下津石根爾宮柱廣知立高天原爾千木高知氏天乃御
蔭日乃御蔭止定奉氏由緣貢流神寶者御鏡御橫刀御弓
御梓御馬爾備奉理御服波明多閉照多閉和多閉荒多閉
爾仕奉氏四方國能獻禮留御調能荷前取泣氏青海原乃

物者波多能廣物波多能狹物與藻菜邊藻菜山野物者甘
 菜辛菜爾至麻豆御酒者甕上高知鵺腹滿竝氏雜物乎如
 橫山積置氏神主爾某官位姓名乎定氏獻流宇豆乃大幣
 帛乎安幣帛乃足幣帛乎平久安久聞食者登皇大御神等
 乎稱辭竟奉久登白獻供如此仕奉爾依氏今母去前母天
 皇我朝廷乎平久安久足御世乃茂御世爾齋奉利常磐爾
 堅磐爾福閉奉利預而仕奉流處處家家王等卿等乎
 母平久天皇我朝廷爾伊如志夜久波叡能如久仕奉利伊
 加叡志米賜登祈願稱辭竟奉良久登白

拜結尾

平野祭

天皇我御命爾坐世今木與利仕奉來流皇大御神能廣前

爾白給久發端皇大御神乃乞志給乃任爾此所能底津石
 根爾宮柱廣敷立高天乃原爾千木高知氏天能御蔭日能
 御蔭登定奉氏由緣神主爾神祇某官位姓名定氏進流神
 財波御弓御太刀御鏡鈴衣笠御馬乎引竝氏御衣波明多
 閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利互四方國能進禮流御
 調能荷前乎取竝氏御酒波鵺戶高知鵺腹滿竝氏山野能
 物波甘菜辛菜青海原乃物波波多能廣物波多能狹物與
 都毛波邊津毛波爾至麻氏雜物乎如橫山置高成氏獻
 流宇豆乃大幣帛乎平久所聞氏獻供天皇我御也乎堅磐
 爾常磐齋奉利伊賀志御世爾幸閉奉氏萬世爾御坐令在
 米給登祈願稱辭竟奉久登申

拜結尾

又申久拜發參氏仕奉流親王等王等臣等百官人等乎母
夜守日守爾守給天皇我朝廷爾伊夜高爾伊夜廣乃伊
賀志夜具波江乃如久立榮之米令仕奉給登祈願稱辭竟
奉久止申拜結尾

龍田風神祭

龍田爾稱辭竟奉皇神乃前爾白久拜發志貴島爾大八島
國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止赤丹乃穗爾聞食
須五穀物乎始兵天下乃公民乃作物乎草乃片葉爾至
萬兵不成一年二年爾不在歲真尼久傷故爾百能物知
人等乃卜事爾出牟神乃御心者此神止白止負賜支此乎
物知人等乃卜事時以低卜止母出留神乃御心母無此白

止聞清低皇御孫命詔久神等乎波天社神社止忘事無
久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神會天下乃公
民乃作物乎不成傷神等波我御心會止悟奉止宇
氣比賜支是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃公民乃
作物乎惡風荒水爾相都都不成傷波我御名者天乃御
柱乃命御乃御柱乃命止御名者悟奉氏吾前爾奉率幣帛
者御服者明妙照妙和妙荒妙五色乃物楯戈御馬爾御鞍
具氏品品乃幣帛備氏吾宮者朝日乃日向處夕日乃日隱
處乃龍田能立野乃小野爾吾宮波定奉氏吾前乎稱辭竟
奉者天下乃公民乃作物者五穀乎始低草乃片葉爾
至乃成幸閉奉奉止悟奉支是以皇神乃辭教悟奉處七

宮柱定奉此乃皇神能前爾稱辭竟奉爾皇御孫命乃宇
豆乃幣帛乎令捧持氏王臣等乎爲使氏稱辭竟奉久止
皇神乃前爾白賜事乎神主祝部等諸聞食止宣由緣奉宇
豆乃幣帛者比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙五色物楯
戈御馬爾御鞍具氏品能幣帛獻比賣神爾御服備金能
麻笥金能櫛金能持明妙照妙和妙荒妙五色物御馬爾
御鞍具氏雜幣帛奉氏御酒者能閉高知能腹滿雙氏和
稻荒稻爾山爾住物者毛乃和物毛乃荒物大野原生物者
甘菜辛菜青海原爾住物者鱈能廣物鱈乃狹物與都藻菜
邊都藻菜爾至由氏爾如橫山打積置氏奉此宇豆乃幣帛
乎安幣帛能足幣帛止皇神能御心爾平久聞食氏獻供天

下能公民能作作物乎惡風荒水爾不相賜皇神乃成幸爾
賜者初穗者能閉高知能腹滿雙氏汁爾母穎爾母八百
稻千稻爾引居置氏秋祭爾奉年止(祈願)王卿等百官
能人等倭國六縣能刀禰男女爾至萬氏爾今年四月諸參
集氏皇神能前爾宇事物頸根築拔氏今日能朝日乃豐逆
登爾稱辭竟奉流皇御孫尊乃宇豆乃幣帛乎神主祝部等
被賜氏墮事無奉禮登宣命乎諸聞食止宣結尾拜詞

鎮火祭

高天原爾神留坐皇親神漏義神漏美能命持氏皇御孫命
波豐葦原乃水穗國乎安國止平久所知食止天下所寄奉
志時爾事寄奉志天都詞太詞事乎以氏申久發端神伊佐

奈伎伊佐奈美乃命妹青二柱嫁繼給氏國乃八十國島能
 八十島乎生給比八百萬神等乎生給比氏麻奈弟子爾火
 結神生給氏美保止被燒氏石隱坐氏夜七夜晝七日吾乎
 奈見給比吾奈妹乃命止申給比支此七日爾波不足氏
 隱坐事奇止氏見所行須時火乎生給比御保止乎所燒坐
 支如是時爾吾名妹乃命能吾乎見給夫奈止申乎見阿波
 多志給比津止申給比吾奈妹能命波上津國乎所知食倍
 志吾波下津國乎所知牟止白氏石隱給氏與美津枚坂爾
 至坐氏所恩食久吾名妹能所知食上津國爾心懸子乎
 生置氏來取止宣氏返坐氏更生子水神飽川菜埴山姫
 四種物乎生給比此能心懸子乃心荒比會波水神飽埴山

姫州柔乎持氏鎮奉禮止事教悟給支由緣依此氏稱辭竟
 奉者皇御孫能朝廷爾御心一速比給波志止爲氏新願進
 物波明妙照妙和妙荒妙五色物乎備奉氏青海原爾住物
 者齋廣物齋物與津海菜邊津海菜爾至萬氏爾御酒者
 態邊高知葛腹滿雙氏和稻荒稻爾至萬氏爾如橫山置高
 成氏(獻供)天津祝詞能太祝詞事以氏稱辭竟奉久止申結
 尾

第四章 送假字と音假字

凡、祝詞文に送假字を加ふるに、單語法と複語法との二
 法あり、一、單語法とは一言一語に送假字を加ふる規
 則をいふなり、即ち左の如し

一用言は作用言と形状言とを問はず。すべて其の語尾を加ふること。

一良行四段一格に轉活せるは、其の本語の語尾を添ふること。

一續用段を体言に言ひ居るは、其の本段の語尾を加ふること。

但し、氷扇コキヤフキの如き物名言は、此の限りにあらず。

一延言は、其の延れる語尾を加ふること。

一其此彼の如き、そのこのかのと訓む所は、のの字を加ふ。

一吾我誰の如き、わがたがと訓む所は、がの字を加ふること。

今祝詞中の語にあて、之を説明すべし。
生受動、領撥、辟敷、退噪、驚繼、衝
嫁拔、剝佩、披引、吹防、壽葭、燒往、
別沸。

これらは、加行四段に活く詞ともなれば、加伎久氣と送假字を加ふべきなり。

開挂、捧平、付續、儲別、

これらは、同行下二段に活く詞なれば、氣久久流久禮と加ふべきなり。

思行、犯押、聞下、乞疑、悟刺、知足、
仆遣、問成、直霽、霽伏、干坐、白益、

見所行 食 糴 依

これらは佐行四段に活く詞なれば左志須世と加ふべきなり

相 失 仰 負 馳 寄

これらは同行下二段に活く詞なれば世須須流須禮と加ふべきなり

過 打 降 立 斷 放 持

これらは多行四段に活く詞なれば多知都氏と加ふべきなり

落 遺 墮

これらは同行上二段に活く詞なれば知都都流都禮

と加ふべきなり

出 立

これらは同行下二段に活く詞なれば氏都都流都禮と加ふべきなり

往

これは奈行三段に活く詞なれば奈爾奴奴流奴禮と加ふべきなり

會 齋 言 失 負 思 隨 傷 給 賜 問 飛 詔 拂 祓 躡 向 翫 結 選

これらは波行四段に活く詞なれば波比不閉と加ふべきなり

荒、疎、麤、生、媚、

これらは同行上二段に活く詞なれば比不流不禮
と加ふべきなり

幸、備、副、稱、食、賜、仕、集、雙、祓、教、竟、

これらは同行下二段に活く詞なれば閉不流不禮
と加ふべきなり

生、恐、住、積、吞、履、惠、

これらは麻行四段に活く詞なれば麻美牟米と加ふ
べきなり

見、

これは同行上一段に活く詞なれば美美流美禮と加ふ

べきなり

明、埋、堅、清、定、令、鎮、進、勤、始、止、

これらは同行下二段に活く詞なれば米牟流牟禮

と加ふべきなり

射、

これは夜行上一段に活く詞なれば以以流以禮と加ふ
べきなり

聞、見、榮、絶、若、

これらは同行下二段に活く詞なれば延由由流由禮
と加ふべきなり

坐、

こは和行上一段に活く詞なれば。章。章流。章禮。と加ふべきなり

居

こは同行下一段に活く詞なれば。惠。宇。宇流。宇禮。と加ふべきなり

預。餘。入。集。遷。冠。刈。限。翔。返。切。籠。
避。塞。知。鎮。奉。垂。足。賜。崇。作。成。生。
殘。乘。議。振。掘。守。參。退。罷。却。依。渡。

これらは。良行四段に活く詞なれば。良。利。流。禮。と加ふべきなり

生。漏。忘。

これらは。同行下二段に活く詞なれば。禮。流。流々。流禮。と加ふべきなり

坐

こは。佐行四段の世より。再。有の活へ轉りて。更に良利流禮と活く詞なれば。世良。世利。世流。世禮。と加ふべきなり

立

こは。多行四段の氏より。再。有の活へ轉りて。活く詞なれば。氏良。氏利。氏流。氏禮。と加ふべきなり

こは。波行四段の閉より。再。有の活へ轉りて。活く詞な

れば、閉良、閉利、閉流、閉禮と加ふべきなり
預集奉作

これらは、良行四段の禮より、再有の活へ轉りて、活く
詞なれば、禮良、禮利、禮流、禮々、と加ふべきなり、
荒、甘、畏、穢、如、狹、近、遠、無、長、廣、

これらは、久、志、伎、と活く詞なり、送假字も、其の如く加
ふべし

惡、奇、茂、峻

これらは、志、志久、志伎、と活く詞なり、送假字も、其の如
く加ふべし

平、安

これらは、氣久、氣志、氣伎、と活く詞なり、送假字も、其の
如く加ふべし

緩、噪

これらは、四段に活く詞なり、そを、葛目能、緩比、草乃、噪
岐と体言にいひすゑたるところは、其の如く、送假字
を加ふべし

進、勤

これらは、下二段に活く詞なり、そを、宮進、米爾進、米宮
勤、米爾勤、米と上は體言にいひ、下は用言にいふもと
もに送假字を加ふべし

奉、良久、宣、波、久、白、左、久

これらは奉留宣布白須の延言なれば右の如く送假字を加ふべし

複語法とは二言二語及神名地名等に送假字を加ふる規則をいふなり即ち左の如し

一二箇の用言連続せるものは其の上の詞の送假字を省きて其下の詞にのみ加ふること

一一箇の用言と一箇の體言との連続せるもまた其の上の語の送假字を省くこと

一神名地名等の間に加ふべき送假字は之を省くこと今祝詞中の語に於て之を説明せば

聞食須知食須上坐須至坐須祓給比清給布齋奉利幸奉

利大知利高知利取作留畫垂利

また住物生物生日足日

また健御賀豆智命伊波比主命皇御孫命出雲國の如し其の他類を推して知るべし

音假字は送假字に用ゐるのみならず古今の言語を祝詞文に寫さむには音假字を用ゐざるべからざる必要あり故に之を臚列すること左の如し

清音假字

ア阿安

イ伊

〔ウ〕宇汗

〔エ〕叡廷愛

〔オ〕意淤隱

〔カ〕加可迦甲

〔キ〕伎支貴岐企紀幾吉

ク久玖

〔ケ〕氣計家祁

〔コ〕許古己

〔サ〕在佐射沙

〔シ〕志之斯師

〔ス〕須周

〔セ〕世勢

〔ソ〕曾蘇宗

〔タ〕多太他

チ智知

ツ都

テ氏天帝

〔ト〕登刀斗等

〔ナ〕那奈

〔三〕爾仁

〔又〕奴怒

〔子〕彌泥尼

〔ノ〕能乃

〔ハ〕波八

〔ヒ〕比肥斐

〔フ〕布府

〔ヘ〕鬲部幣閉

〔ホ〕保富本

〔マ〕麻萬末

〔ミ〕彌美味微

〔ム〕牟武无

〔メ〕賣米暉

〔モ〕母毛

〔ヤ〕夜也

〔ユ〕由

〔ヨ〕與用豫余

〔ラ〕良羅

〔リ〕利理

〔ル〕留流魯

〔レ〕禮

〔ロ〕呂漏

〔リ〕和

〔キ〕章

〔エ〕惠

〔ヲ〕衰

濁音假字

〔ガ〕我賀

〔キ〕藝疑

〔ク〕具

〔ゲ〕下宜牙

〔コ〕暮

〔ヤ〕耶奢

〔シ〕事自出

〔ス〕受

〔セ〕是

〔ソ〕叙

〔タ〕陀

〔チ〕遲治地

〔ツ〕豆類

〔テ〕傳殿

〔下〕行度

〔ハ〕婆

〔ヒ〕備

〔フ〕夫

〔ヘ〕倍辨

〔ホ〕煩

百五十二

明治四十二年四月廿五日印刷
明治四十二年四月三十日發行

(定價金貳拾五錢)

東京市麴町區飯田町五丁目八番地

著述者兼
發行者

皇典講究所
國學院大學 出版部

右代表者

目 黒 和 三 郎

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷者

小 西 幸 吉

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷所

日 本 印 刷 株 式 會 社

版 權 所 有

259
255

國書第十二卷
國書第十二卷
國書第十二卷

國書第十二卷

國書第十二卷

國書第十二卷

9
5